Ⅵ. 講義概要
(Syllabi)

カリキュラムマップ　（鹿児島純心女子大学　大学院人間科学研究科）

DP1：研究遂行に至る読解力、資料収集、分析能力を持ち、内外へ発信する能力を培っている。
DP2：研究倫理を遵守したうえで、研究目的やその意義を正確に論述する能力を有している。
DP3：論理的思考、創造的思考を身につけ、臨床場面での問題点を見つけることができる。
DP4：社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身に着けている。
DP5：心理臨床学を基盤に、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけ、独創的視点で修士論文をまとめる統合力、総合力を獲得している。

開講時期		系列	科目名	履修方法	単位数		臨床心理士資格試験受験のための必要科目	公認心理師受験資格のための必要科目	ディプロマポリシー				
年度	時期				必修	選択			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
毎年	1通年	専門領域	臨床心理学特論	L		4	必		○	○	○	◎	○
毎年	1年前	専門領域	臨床心理面接特論Ⅰ （心理支援に関する理論と実践）	L		2	必	必	○	○	◎		○
毎年	1年後	専門領域	臨床心理面接特論Ⅱ	L		2	必		○	○	○	◎	○
毎年	1年前	専門領域	臨床心理査定演習Ⅰ （心理的アセスメントに関する理論と実践）	S		2	必	必	○	○	◎	○	○
毎年	1年後	専門領域	臨床心理査定演習Ⅱ	S		2	必		○	○	◎	○	○
毎年	1年前	専門領域	臨床心理学研究法特論	L		2	選必　A		○	◎	○		○
毎年	1年前	専門領域	心理統計法特論	L		2	選必　A		◎		○		○
偶数	後	専門領域	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	L		2	選必　B	必			○	◎	
奇数	後	専門領域	福祉分野に関する理論と支援の展開	L		2	選必　B	必			○	◎	
奇数	後	専門領域	神経学特論Ⅰ	L		2	選必　B		○		○	◎	
奇数	前	専門領域	家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践	L		2	選必　C	必			○	◎	
奇数	前	専門領域	被害者臨床援助特論	L		2	選必　C		○		○	◎	○
奇数	前	専門領域	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	L		2	選必　C	必	○		○	◎	○
偶数	後	専門領域	福祉行政総論	L		2	選必　C		◎		○	○	
偶数	前	専門領域	障害児（者）心理学特論	L		2	選必　D		○		○	◎	○
奇数	前	専門領域	小児保健特論	L		2	選必　D		○		○	◎	
偶数	前	専門領域	保健医療分野に関する理論と支援の展開	L		2	選必　D	必	○		◎	○	○
偶数	前	専門領域	精神薬理学特論	L		1	選必　D				○	◎	
偶数	後	専門領域	神経学特論Ⅱ	L		2	選必　D		○		○	◎	
毎年	1年前	専門領域	遊戯療法特論	L		2	選必　E		○		○	◎	○
奇数	前	専門領域	精神分析的面接特論	L		2	選必　E				○	◎	
奇数	前	専門領域	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	L		2		必			○	◎	○
奇数	後	専門領域	心の健康教育に関する理論と実践	L		2		必			○	◎	○
偶数	前	専門領域	文化人類学特論	L		2			◎		○		○
毎年	1通年	課題研究	臨床心理基礎実習	P	2		必				○	◎	○
毎年	1通年	課題研究	心理実践実習Ⅰ	P		4		必			○	◎	○
毎年	2通年	課題研究	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）	P		6	必	必	○		○	◎	○
毎年	2通年	課題研究	臨床心理実習Ⅱ	P		2	必		○	○	○	◎	○
毎年	1通年	特別研究	特別研究Ⅰ	S	4		必		○	○	○	○	◎
毎年	2通年	特別研究	特別研究Ⅱ	S	4		必		○	○	○	○	◎
		単　位　計			10	61							

注）　L：講義　S：演習　P：実習
必：「臨床心理士」資格取得のための受験資格を得るにあたっての必修科目
選必：「臨床心理士」資格取得のための受験資格を得るにあたっての選択必修科目
選択必修科目群Ａ～Ｅよりそれぞれ２単位以上の修得が必要（詳細は別表２を参照）

科 目 名 Subject Name	臨床心理学特論	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	通年
担当教員 Instructor	餅原　尚子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	臨床心理学の活動は病院臨床、学校臨床、福祉臨床、産業臨床、司法臨床など多岐にわたる。臨床心理学の各専門領域において「臨床心理査定」「臨床心理面接」「臨床心理調査・研究」「臨床心理地域援助」「協働・連携」としての臨床的知見を深めることが重要である。クライエントの精神病理を理解しながら自らを振り返り、自己理解を深め、臨床心理学的側面から心理臨床家としてのありよう（精神的風土）を感得することを到達目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	精神科病院、スクール・カウンセリング、被害者・被災者支援、メンタルヘルス（公務員、企業、支援施設等）の心理臨床の実務経験を活かした内容になる。 前期は、臨床心理学の根幹（人間観）について感得する。 後期は、現代の精神病理現象を概観し、心理臨床家としてのありようを洞察（自己洞察）できるよう、講義を展開する。

回	内　　容
1	臨床心理学の歴史と現代に求められること ・人間観・発達観・教育観
2	臨床心理学と臨床観 ・人間哲学
3	臨床心理アセスメント：人間理解の方法 ・協働的アセスメント ・治療的アセスメント
4	臨床心理面接（心理療法）：病める心への心理支援
5	神経発達障害 ・知的障害 ・自閉スペクトラム症 ・学習症 ・注意欠如多動症
6	自我・自己 ・神経症的不登校 ・選択性緘黙
7	いじめへの介入
8	心の病気 ・統合失調症 ・感情障害 ・心身症
9	現代社会と高齢化現象 ・自己概念 ・病気や障害のある高齢者
10	産業保健とメンタルヘルス ・感情労働とメンタルヘルス／共感疲労 ・発達障害とメンタルヘルス／カサンドラ症候群 ・トラウマとメンタルヘルス ・メンタルヘルスと「生きる意味」
11	トラウマの臨床心理アセスメント（虐待、犯罪被害、被災） ・PTSD（心的外傷後ストレス障害） ・CIS（惨事ストレス）
12	トラウマの臨床心理面接
13	臨床心理学における道徳原則と倫理
14	スーパーヴィジョンと自己研鑽
15	心理臨床家としての「生きる意味」の確立
16	診断基準（ICD、DSM）について
17	現代人の精神病理 ・異常な人間～虚偽の自己
18	自閉的人間～種としての人間
19	催眠・暗示にかかった人間～本物と偽物
20	劣等感～対人関係におかれた人間

	回	内　　容
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	21	権威主義的人間
	22	現代人の孤独～専門化の暴力
	23	集団化する人間～均一的な人間
	24	人間関係の破壊～非人間化
	25	組織にあやつられた人間～作為体験
	26	神経症からの逃走～神経症にならぬ人々
	27	精神的常同症～主観主義的人間
	28	瞬間的人間～コルサコフ症候群
	29	マスコミの中の人間～機械的人間
	30	＜心理臨床家としての倫理＞ ・心理臨床家の人格と欲求、価値観についての自覚とそれらによる影響・守秘 ・境界の管理と多重関係・専門家としての能力と訓練 ・スーパービジョン・理論と実践と研究の倫理 ・「査定」と「診断」 ・治療における責任分担 ・カウンセリングの目標 ・カウンセリングにおける技法の使用 ・研究における倫理的問題
	31	
	32	
履修上の注意事項 Remarks	臨床心理学とは何か、あらかじめ十分に理解しておくこと。	
準備学習 Preparation	テキストと参考文献は常時携帯し、購読の上、次回までに自身の見解を準備しておくこと。1 回の授業に対し 4 時間程度の時間外学習。	
評価方法 Evaluation Method	到達目標について、ある事例等の「見立て」について相互に討論したり、レポートの内容によって評価する。発表内容 30%、関心・意欲の程度をみる講義への取り組み 40%、精神病理を鑑みて自己洞察できたかどうかをみる学期末の課題レポート 30%	
テキスト Materials	*教科書は、大学院の講義のみならず、心理臨床に関する就職後も使用するものである。 久留一郎・餅原尚子著（2019）『臨床心理学－「生きる意味の確立」と心理支援－』（全員購入） 大塚義孝ら監修（2004）『臨床心理学原論』誠信書房（全員購入） APA(髙橋三郎/大野裕監訳)（2014）『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』医学書院（全員購入） WHO（融道夫他訳）（2005）『ICD-10 精神および行動の障害-臨床記述とガイドライン』医学書院（全員購入） 伊藤隆二他編（1999）『臨床心理学辞典』八千代	
参考文献 References	越賀一雄（1964）『異常の人間：精神病理学的人間論』誠信書房	
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。	

科 目 名 Subject Name	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	前期 毎年
担当教員 Instructor	藤田　千鶴子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	スクールカウンセリング（SC）を含む学校臨床について、一般的な情報を獲得するとともに、SC としてのみならず臨床家としての基本的な心理臨床技法、その背景にある理論についての知見を身につける。また、教師、スクールソーシャルワーカー等、学内、学外諸機関との連携、協働のありかたについての実際を学び、自身の実践の基礎として応用できるようにする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	参加院生の研究領域に従って、授業でとりあげる心理療法、およびそれらの技法による事例検討の少なくとも 2 回のプレゼンテーションをおこなうことを基本とする。また自身以外のプレゼンテーションに積極的にも参加することを通して、さまざまな技法に親しみ、それぞれの特徴を学ぶ。

回	内　　容
1	第１回　コースの目的、課題、評価方法等についての説明
2	第２回　学校とは (1) ：教育システムとしての学校 学校とは (2) ：法的根拠
3	第３回　学校とは (3) ：“文化”としての学校
4	第４回　学校臨床：スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカーの歴史
5	第５回　学校臨床：SC が対処すること。スクールソーシャルワーカー、教師との連携、協働のありかた
6	第６回　学校臨床と面接技法（1）：来談者中心療法
7	第７回　学校臨床と面接技法（2）：精神分析
8	第８回　学校臨床と面接技法（3）：遊戯療法
9	第９回　学校臨床と面接技法（4）：遊戯療法
10	第 10 回　学校臨床と面接技法（5）：認知行動療法
11	第 11 回　学校臨床と面接技法（6）：ナラティブセオリー
12	第 12 回　学校臨床と面接技法（7）：家族療法
13	第 13 回　学校臨床の事例検討 (1) ：来談者中心療法、遊戯療法
14	第 14 回　学校臨床の事例検討 (2) ：家族療法
15	第 15 回　学校臨床の事例検討 (3) ：認知行動療法
16	

履修上の注意事項 Remarks	参加院生の研究領域に従って、面接技法、学校臨床における自身の領域についての知識と技法を深めるための機会に資することを期待する。
準備学習 Preparation	面接技法、事例検討の双方でプレゼンテーションを行うこととする。その他にも、毎回の内容について、積極的にディスカッションに参加することを前提とする。1 回の授業に対し 4 時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	最低 2 回のプレゼンテーション(60%)、授業でのディスカッションへの積極的参加(20%)、最終レポート(20%)
テキスト Materials	適宜紹介する。
参考文献 References	随時配布する。
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	論理的思考、創造的思考を身につけ、臨床場面での問題点を見つけることができる。

科 目 名 Subject Name	臨床心理面接特論Ⅱ	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	後期 毎年
担当教員 Instructor	餅原　尚子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	現実の困難や複雑な問題に直面している人々への臨床心理面接の具体的方法論について学ぶ。主要な 3 つのオリエンテーション（学派）の共通性と差異性に視点を当てる。特に人間学的心理療法を理解し、心理臨床的支援を行うための基本的姿勢、治療構造的支援、支援する側の「視座」等、基本的態度および基礎的技法を体系的に学習し、さまざまな心理臨床の領域につなげる。さらに、スーパーヴィジョンの重要性を学び、人間の心理的世界を理解する資質を養うことができることを目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	精神科病院、大学相談室（臨床心理面接、臨床心理査定、遊戯療法等）、被害者・被災者支援、メンタルヘルス（公務員、会社員、支援員等）等の心理臨床での実務経験に基づく業務の実際を活かした内容になる。 発表を中心とし、個人の人間観、治療観を育む。さらに心理臨床領域と対象に応じた臨床心理面接へと展開していく。

回	内　　容
1	＜治療構造＞ ・内的治療構造　・外的治療構造
2	＜臨床心理面接における主要な 3 つのオリエンテーション（学派）の症状のとらえ方と治療仮説＞ ・精神分析的アプローチ　・認知・行動論的アプローチ　・人間学的アプローチ
3	＜人間学的アプローチ＞ ・人間学的心理療法の治療仮説と基本姿勢　・「我と汝」の出会い的関係　・関主観的関係 ・了解することの意味　・現象学的理解
4	・ロジャーズ：現象学的心理学　来談者中心療法の治療仮説
5	・アクスライン　・ムスターカス　　遊戯療法の治療仮説
6	・マスロー：自己実現理論
7	・フランクル　　実存分析（ロゴテラピー）の治療仮説
8	・ヤスパース：精神病理学的了解
9	＜心理臨床の領域と対象＞ ・学校臨床（スクール・カウンセリング、学生相談） 緊急支援（事件・事故・災害）　　コンサルテーション
10	・病院臨床 集団精神療法　　HIV/AIDS カウンセリング
11	・被害者臨床 ポスト・トラウマティック・カウンセリング　ポスト・トラウマティック・プレイセラピー 心理教育　adovocator としての役割
12	・産業臨床 発達障害者・精神障害者への就労支援　肉体労働・頭脳労働・感情労働とメンタルヘルス 自殺への対応
13	＜スーパーヴィジョン＞ ・スーパーヴィジョンの役割と目的　・スーパーヴィジョンと人間理解・人間的成長
14	・コンサルテーション　・事例検討会　・ケース・カンファレンス　・臨床指導
15	・生涯にわたるスーパーヴィジョン（必須）の実際
16	

履修上の注意事項 Remarks	臨床心理面接技法についての知識と技法を深めるための機会に資することを期待する。
準備学習 Preparation	テキストと参考文献は購読の上、次回までに自分の見解を準備しておくこと。1 回の授業に対し 4 時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	到達目標について、3 つのオリエンテーションについて述べ、治療仮説、治療構造、視座、スーパーヴィジョンの重要性について感得しているかどうかを評価する。発表内容（30%）、関心・意欲の程度をみる講義への取り組み（40%）、3 つのオリエンテーション、治療仮説、治療構造、視座、スーパーヴィジョンの重要性を理解できたかをみる学期末の課題レポート（30%）の総合評価とする。
テキスト Materials	伊藤良子編（2004）『臨床心理面接技法 1』誠信書房（全員購入） 久留一郎・餅原尚子著（2019）『臨床心理学ー「生きる意味」への心理支援ー』八千代出版（全員購入）
参考文献 References	乾吉佑ら編（2005）『心理療法ハンドブック』創元社 シュルツ著（上田吉一監訳）（1982）『健康な人格』川島書店 ジェラルド・コウリーら著（村本詔司監訳）（2004）『援助専門家のための倫理問題ワークブック』 下山晴彦編（2003）『臨床心理実習』誠信書房
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につける。

科 目 名 Subject Name	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	配当年次 Assigned Year	1年	開講時期 Semester	前期 毎年
担当教員 Instructor	中村　誠文, 石井　洋平, 餅原　尚子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	心理臨床におけるアセスメントについて、その意義と理論・方法について学習する。さらに、心理臨床に関する相談、助言、指導等への応用・実践について理解することがねらいである。 1.心理アセスメントを「する側」と「受ける側」のありようについて理解することができる。 2.知能検査、発達検査をはじめ質問紙法、投映法、作業法について、「第一水準レベル」「第二水準レベル」「第三水準レベル」で理解し、適切なテスト・バッテリーを組み、所見を書くことができる。 3.心理検査の施行上の留意点、教示の与えかたの注意、反応の記録の取り方、質疑のポイント、スコアリングを学び、結果を出すことができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	「自分」を被検者に、心理検査の受検体験をし、分析、解釈を試みる。さらに、実際のケースを通して、心理検査の実施方法、分析、解釈の方法を学べるような演習とする。なお、実際のケースについては、精神科病院等（石井、餅原担当、未定）、スクールカウンセリング、保健センター・発達相談員等（中村担当）としての実務経験に基づく業務の実際を活かした内容になる。

回	内　　容
1	ウェクスラー法体験（餅原） ・「自分」を被検者に、Wechsler 法を体験する。
2	ロールシャッハ・テスト体験（餅原） ・「自分」を被検者にロールシャッハ・テストを体験する。
3	人間理解の方法（心理的アセスメントの意義、理論と方法）（餅原） ・面接法　・観察法　・心理検査法
4	心理検査を「する側」と「受ける側」の関係のありよう（餅原） ・「する側」の倫理　・「する側」の専門性（必須のスーパーヴィジョン） ・「受ける側」の心理的、身体的、環境的条件
5	心理検査の種類（石井） ・知能検査、発達検査、質問紙法、投映法、作業法　・第一水準レベル、第二水準レベル、第三水準レベル
6	知能検査の理論と方法（中村）
7	ウェクスラー法（石井）・実施方法（WAIS）
8	ウェクスラー法（石井）・分析方法（WAIS）
9	ウェクスラー法（中村）・実施方法/分析方法（WISC）
10	心理検査の種類（石井）・SCT（文章完成法テスト）　・P-F スタディ　・描画テスト　・コラージュ療法等
11	発達検査の理論と方法（中村）
12	乳幼児精神発達質問紙（津守式）（中村）
13	乳幼児分析的発達検査法（遠城寺式）（中村）
14	DENVERⅡ―デンバー発達判定法―（中村） 日本版 K-ABCⅡ他
15	新版 K 式発達検査 2001（中村）
16	ビネー法（中村）　・実施方法/分析方法
17	心理検査の種類（2）（中村） ・TEG（東大式エゴグラム）　・CMI 健康調査票　・Y-G 性格検査　・MAS（顕在性不安検査） ・SDS（自己評価式抑うつ性尺度）　・MMPI　等　作業検査（クレペリン作業検査等）
18	遂行機能のアセスメント（石井） ・トレイル・メイキング・テスト（TMT） ・ウィスコンシン・カード・ソーティング・テスト（WCST）など
19	失語症検査（石井） ・WAB 失語症検査など
20	認知症検査（石井） ・長谷川式認知症スケール（HDS-R）　・MMSE（Mini-Mental State Examination）など

	回	内　　容
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	21	投映法（餅原） ・TAT（主題統覚検査）　・ロールシャッハ・テスト
	22	ロールシャッハ・テスト（餅原）　・クロッパー法　・ベック法
	23	ロールシャッハ・テスト（餅原） ・エクスナー法　・片口法　・阪大法
	24	ロールシャッハ・テスト（餅原） ・実施方法
	25	ロールシャッハ・テスト（餅原） ・スコアリングの方法　反応数、初発反応時間、反応領域
	26	ロールシャッハ・テスト（餅原） ・スコアリングの方法　決定因
	27	ロールシャッハ・テスト（餅原） ・スコアリングの方法　形態水準　反応内容
	28	ロールシャッハ・テスト（餅原） ・スコアリングの方法　平凡反応　感情カテゴリー
	29	ロールシャッハ・テスト（餅原） ・スコアリングの方法　思考・言語カテゴリー
	30	テスト・バッテリーの組み方（餅原） ・情緒障害（不登校・登校拒否、選択性緘黙症等）の事例　・発達障害、知的障害の事例 ・精神障害の事例　・人格障害の事例
	31	
	32	
履修上の注意事項 Remarks	テキストを熟読しておくこと。 テキスト・配布資料等は、必ず封筒等に入れ、管理を徹底すること。	
準備学習 Preparation	第１回目、第２回目までは、予習をしないこと。 第２回目以降は、テキストを熟読し、専門用語等を調べ、スコアリングを自分で試みてみること。 毎回の演習後は、スコアリングの確認をし、分析・解釈について習熟しておくこと。 ２年次には、「復習」として、１年次生へのティーチング・アシスタントをすること。 １回の授業に対し１時間（週当たり２時間）程度の時間外学習。	
評価方法 Evaluation Method	到達目標に対して、「する側」と「受ける側」のロールプレイ等を通し、「自分」を被験者にした所見によって評価する。特に、発表 25%、関心・意欲の程度をみる演習への取り組み 35%、所見作成力をみる学期末の課題レポート 40%の総合評価とする。	
テキスト Materials	氏原寛他編（2006）『心理査定実践ハンドブック』創元社 名古屋ロールシャッハ研究会（2018）『ロールシャッハ法解説～名古屋大学式技法～』金子書房	
参考文献 References	H. ロールシャッハ著（鈴木睦夫訳）（1998）『新・完訳　精神診断学』金子書房 日本ロールシャッハ学会『ロールシャッハ法研究』 Society for Personality Assessment『Journal of Personality Assessment』Taylor & Francis	
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	論理的思考、創造的思考を身につけ、臨床場面での問題点を見つけることができる。	

科 目 名 Subject Name	臨床心理査定演習Ⅱ	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	後期 毎年
担当教員 Instructor	餅原　尚子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	心理臨床におけるアセスメントについて、病理的サインの読み方について学習する。特に、ロールシャッハ・プロトコルから、精神障害圏、人格障害圏、不安障害圏、発達障害圏、脳器質障害圏等の病理をよみとることができるようになることがねらいである。さらに、さまざまな心理検査等とのバッテリーにより、一人の人間を統合的にアセスメントすることができ、人間を立体的・統合的に理解した総合所見を書き、それを他職種に伝えられるようなることを到達目標とする。

授 業 の 展開計画

Outline of Class Sessions

事例を通して、ロールシャッハの病理的サインの読み取り方、テスト・バッテリーの組み方、総合所見の書き方を学ぶ。特に、精神科病院等における実務経験（精神鑑定、鑑別診断等）に基づく業務の実際を活かした内容になる。

回	内　　容
1	ロールシャッハ・サイコロジーとは(Idiosyncratic)
2	ロールシャッハ・カードⅠ～Xのシークエンスのもつ意味
3	事例：統合失調症のプロトコルから ・スコアリング
4	事例：統合失調症のプロトコルから ・所見作成
5	事例：統合失調感情障害のプロトコルから ・スコアリング
6	事例：統合失調感情障害のプロトコルから ・所見作成
7	事例：初期統合失調症のプロトコルから ・スコアリング
8	事例：初期統合失調症のプロトコルから ・所見作成
9	事例：感情障害のプロトコルから ・スコアリング
10	事例：感情障害のプロトコルから ・所見作成
11	事例：パーソナリティ障害のプロトコルから ・スコアリング
12	事例：パーソナリティ障害のプロトコルから ・所見作成
13	事例：不安障害のプロトコルから ・スコアリング
14	事例：不安障害のプロトコルから ・所見作成
15	PTSD のロールシャッハ反応 ・極度のいじめの事例 ・セクハラ、ストーカー被害 ・性的被害 ・自然災害 ・虐待
16	発達障害のロールシャッハ反応
17	事例：PTSD のプロトコルから ・スコアリング
18	事例：PTSD のプロトコルから ・所見作成
19	事例：発達障害のプロトコルから ・スコアリング
20	事例：発達障害のプロトコルから ・所見作成

	回	内　　容
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	21	事例：精神鑑定事例のプロトコルから ・スコアリング
	22	事例：精神鑑定事例のプロトコルから ・所見作成
	23	ブラインド・アナリシス（事例） ・スコアリング
	24	ブラインド・アナリシス（事例） ・所見作成
	25	協働的（治療的アセスメント）
	26	所見作成の例 ・質問紙法 ・投映法
	27	スーパーヴィジョンの受け方と実際
	28	テスター体験 ・Wechsler 法
	29	テスター体験 ・ロールシャッハ法
	30	新入生を被験者にしたロールプレイ（実施のみ）
	31	
	32	
履修上の注意事項 Remarks	被検者体験のデータを持参のこと（必ず封筒に入れて保管）。	
準備学習 Preparation	臨床心理査定演習Ｉをマスターしておくこと。１回の授業に対し１時間（週当たり２時間）程度の時間外学習。	
評価方法 Evaluation Method	到達目標に対して、ブラインド・アナリシスによって、病理的サインが読み取れており、それを所見にまとめられているか、さらに、テスター体験によって、感得しているかどうかに視点をあて評価する。演習で取り上げる事例についてのスコアリング・所見作成 30%、関心・意欲の程度をみる授業への取り組み 40%、自分を被検者としたデータの総合所見作成（学期末レポート）30%の総合評価とする。	
テキスト Materials	名古屋ロールシャッハ研究会（2018）『ロールシャッハ法解説～名古屋大学式技法～』金子書房（前期に購入済） 久留一郎・餅原尚子著（2019）『臨床心理学ー「生きる意味の確立」と心理支援ー』八千代出版（前期に購入済）	
参考文献 References	スティーブン・E・フィン（2014）『治療的アセスメントの理論と実践：クライアントの靴を履いて』金剛出版	
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	論理的思考、創造的思考を身につけ、臨床的場面での問題点を見つけることができる。	

科 目 名 Subject Name	臨床心理学研究法特論	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	前期 毎年
担当教員 Instructor	楠瀬　悠，藤田　千鶴子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	臨床心理学研究を行っていく上での基礎となる倫理観を養い、様々な研究法を知り、最終的には自分の研究等で適切な研究法を選び、用いることができるようになることがねらいである。 １．臨床心理学研究を行っていく上での基礎となる倫理観について理解している。 ２．データ収集や処理の基本的な方法について述べることができる。 ３．それぞれの研究に適した研究方法は何かについて判断できる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	本講義では、臨床心理学研究を行っていく上で基礎となる研究の倫理について学んだうえで、データ収集やデータ処理の方法別にどのような研究法があるのかを概観する。さらに実践や心理アセスメント、心理的介入技法にかかわる実際の論文をもとにして、種々の研究分析法について吟味する。

回	内　　容
1	イントロダクション：臨床心理学研究とは 担当：藤田・楠瀬
2	心理学研究の概説とその流れ　担当：楠瀬
3	実験的研究の基本　担当：楠瀬
4	実験的研究の基本②　担当：楠瀬
5	観察的研究の基本 - 調査法・観察法　担当：楠瀬
6	研究の倫理　担当：楠瀬
7	臨床心理学的研究の実施と解釈（1）：実験的研究　担当：楠瀬
8	臨床心理学的研究の実施と解釈（2）：実験的研究　担当：楠瀬
9	質的研究方法：様々なアプローチ方法とそれらが目指すもの：　担当：藤田
10	質的研究方法（1）Van den Berg による現象学的アプローチ 1. "The psychology of the Sickbed" が示すもの：担当：藤田
11	質的研究方法（2）Van den Berg による現象学的アプローチ　2. "The psychology of the Sickbed" が示すもの：担当：藤田
12	質的研究方法（3）Van den Berg による現象学的アプローチ　3. "A Different Existence; Phenomenological Psychopathology" が示すもの：担当：藤田
13	質的研究方法（4）Van den Berg による現象学的アプローチ　4. "A Different Existence; Phenomenological Psychopathology" が示すもの　：担当：藤田
14	質的研究方法　(5) "The Pedagogy of Special Needs Education Education; Phenomenology of Sameness and Difference" by Chizuko Fujita を参考に 1.　：　担当：藤田
15	質的研究方法　(6) "The Pedagogy of Special Needs Education Education; Phenomenology of Sameness and Difference" by Chizuko Fujita を参考に 2.　担当：藤田
16	

履修上の注意事項 Remarks	第 10 回～第 15 回については、担当者を決め、担当者が各研究法をとりあげた論文を事前に文献検索し、簡単に内容紹介を行うことを求める。 講義内外での質問事項や、ディスカッション、プレゼンテーションに対して、適宜フィードバックを行う。ただし、学期末のレポートについては、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
準備学習 Preparation	心理学研究法に関する用語等について事前学習を行う。 発表担当者は各自論文検索しその内容をまとめること。 １回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	受講状況や学習態度（20%）、プレゼンテーションやディスカッション内容（30%）、期末レポート（50%）で、総合的に評価する。 レポートの評価については、「論文作成の作法」10 点「文章としてのまとまり・タイトルの付け方」等の文章表現 10 点、「問題設定の適切性」20 点、「設定した問題に対する情報収集の適切性」30 点、「問題に対する考察の適切性・独自性」30 点をベースとする。
テキスト Materials	三浦麻子（監・著）（2017）『心理学ベーシック第１巻 なるほど！心理学研究法』北大路書房（全員購入）
参考文献 References	下山晴彦・能智正博 編（2008）『心理学の実践的研究法を学ぶ』新曜社 下山晴彦 編（2000）『臨床心理学研究の技法』福村出版 下山晴彦 編（2004）『臨床心理学の新しいかたち』誠信書房 その他適宜紹介する。 第 9 回～第 15 回については、その都度資料を配布する。
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	研究倫理を遵守した上で、研究目的やその意義を正確に論述する能力を有している。

科 目 名 Subject Name	心理統計法特論	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	前期 毎年
担当教員 Instructor	楠瀬　悠	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	心理学研究において統計を用いる意義を理解し、統計の仕組みについて知るとともに、収集したデータに基づき適切な統計手法を選択し、実施できるようになることが目的である。 １．心理統計法の基本的な考え方や分析手法について理解し、説明することができる。 ２．収集したデータの分析に用いる統計手法を選択できる。 ３．統計パッケージを用いて、相関分析、t 検定、分散分析、因子分析など主要な統計手法を実施できる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	この講義では、心理統計法の基本的な考え方や、その仕組みについて、実際に計算をしながら説明をしていく。 また、実習の時間を設けて、Excel および Excel を基に作成されたフリーの統計パッケージである HAD を用いて実際のデータの分析方法について学んでいく。

回	内　　容
1	イントロダクション：心理学研究における統計法の意義 記述統計①（変数とデータ、度数分布、平均）
2	記述統計②（分散、標準偏差）
3	実習①（HAD の使い方、記述統計）
4	共分散、相関
5	実習②（相関）
6	データの標準化、z 検定
7	t 検定
8	実習③（t 検定）
9	カイ二乗検定
10	実習④（カイ二乗検定）
11	分散分析①：1 要因分散分析
12	分散分析②：2 要因分散分析
13	実習⑤（分散分析）
14	多変量解析入門（因子分析、重回帰分析など）
15	実習⑥（因子分析、重回帰分析など）
16	

履修上の注意事項 Remarks	・統計の仕組みについて理解するために簡単な計算をすることがあるので、電卓を持ってくること。 ・テキストおよび配布資料は毎回持ってくること。
準備学習 Preparation	・毎回の講義は、前回の講義で話したことを前提として進めるので、授業に参加する際には予め事前に配布した資料を読んで復習をしておくこと。 ・実習の際には、Excel や HAD を用いて分析をしてもらい、分析後のファイルを moodle 上に提出してもらうので、Excel や moodle の使い方について理解しておくこと。 1 回の授業に対し 4 時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	・期末試験（70%）、授業への取り組み（授業への積極的な参加、提出物など（30%）））
テキスト Materials	小宮あすか・布井雅人（著）　(2018)　『Excel で今すぐはじめる心理統計―簡単ツール HAD で基本を身につける』　講談社（全員購入） テキストに加えて、配布資料を使用する。
参考文献 References	古谷野亘（著）(1988)『数学が苦手な人のための多変量解析ガイドー調査データのまとめかた』　川島書店 芝田征司（箸）(2017)『数学が苦手でもわかる心理統計法入門』サイエンス社 芝田征司（箸）(1011)『数学が苦手でもわかる心理統計法入門ワークブック』サイエンス社
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	研究遂行に至る読解力、資料収集、分析能力を持ち、内外へ発信する能力を培っている。

科 目 名 Subject Name	福祉分野に関する理論と支援の展開	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	後期 奇数年度
担当教員 Instructor	中村　誠文	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	福祉とは、「幸福」や「ゆたかさ」を意味する言葉であり、人間が人間らしい生活を営み、一人ひとりがよりよく生きることを目指すものである。支援対象者も乳幼児、児童、成人、高齢者、障害のある人など幅が広く、様々な支援制度や施設がある。本講義では、社会福祉の歴史や現状、近年の社会的問題の理解を深め、福祉現場において心理専門職としての姿勢や支援のあり方を考えることを目指す。 １．社会福祉の歴史と現状を理解することができる。 ２．福祉分野の制度や法規、各施設の役割や機能、心理専門職の業務について理解することができる。 ３．福祉分野の各領域において近年社会的問題になっている事柄と心理的知識を結びつけて考え、支援のあり方について自分なりに考えることができる。

授 業 の 展開計画

Outline of Class Sessions

授業は、講義と発表を中心とし、各福祉領域において社会的課題となっているテーマについての発表をもとに、議論し内容を深めていく。また、保健医療や精神保健福祉領域での心理専門職としての実務経験による事例を取り入れた内容を含む。

回	内　　容
1	社会福祉の歴史と福祉心理学
2	社会福祉の理念
3	社会福祉の制度と法規
4	福祉分野における倫理
5	保健福祉領域における心理支援①―自殺予防―
6	保健福祉領域における心理支援②―ひきこもり―
7	保健福祉領域における心理支援③―依存症―
8	児童・家庭福祉領域における心理支援①―児童虐待―
9	児童・家庭福祉領域における心理支援②―貧困―
10	児童・家庭福祉領域における心理支援③―DV（ドメスティック・バイオレンス）―
11	高齢者福祉領域における心理支援①―高齢者虐待―
12	高齢者福祉領域における心理支援②―認知症―
13	障害者福祉領域における心理支援①―身体・知的・精神障害―
14	障害者福祉領域における心理支援②―発達障害―
15	被害者支援と加害者支援について
16	

履修上の注意事項 Remarks	第５回～第１４回については担当者を決め、担当者が各テーマについて調べ、紹介を行うことを求める。 意見や質問など積極的に発言すること。
準備学習 Preparation	日ごろから社会的出来事（ニュース等）に関心を持ち、現代の社会における価値観に敏感であること。 配布資料は、ファイルにまとめ、いつでも復習しやすいようにしておくこと。 発表担当者は、課題テーマの発表準備を行なうこと。 １回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	評価は、「関心・意欲の程度をみる授業への取り組み」（20%）、「プレゼンテーション」（30%）、「授業を通しての気づきや思考力をみる学期末の課題レポート」（50%）の総合評価とする。
テキスト Materials	配布資料あり。
参考文献 References	片岡玲子・米田弘枝（編著）（2019）『公認心理師分野別テキスト２福祉分野　理論と支援の展開』創元社 その他適宜紹介する。
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	神経学特論Ⅰ	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	後期 奇数年度
担当教員 Instructor	口岩　俊子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	精神活動は神経細胞の生理的および生化学的活動により起こる。脳を構成する神経細胞に基質的変化が起きると脳の活動状態が変化し、さらに神経細胞の活動が停止すると精神活動も消え去ってしまう。では、精神活動の基礎となる神経細胞はどのような構造をもち、どのような生理学的、生化学的現象を営んでいるのだろうか。また、神経細胞の集合体である神経回路網はどのように活動しているのであろうか。神経学特論Ⅰでは、これらの疑問の答えに近づくために、神経細胞と神経回路網に関する基礎的事項を理解する。特に、神経組織の基本構造と構成細胞に関する構造学的、生理学的、および生化学的事項について最近の知見を論ずる。神経細胞および神経回路網の構造を学び、神経細胞が活動を営むための神経伝達物質についての知識を得、さらに神経細胞に起こる生理学的および生化学的現象を学ぶことにより、これらの伝達物質が我々のこころの変化や行動にどのように影響しているかを理解し、精神活動を細胞レベルで考察する基礎を養うことを目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	この講義では、まずヒトの精神活動の基礎となる神経細胞について理解する。個々の神経細胞に注目し、その基本構造と機能を理解したうえで、神経細胞が複数連結して構成される神経回路網がどのように発達して非常に複雑な脳の高次機能が確立されていくのかを学ぶ。また、神経回路網の活動に大きな影響を与える神経伝達物質の種類とその機能について学び、我々のこころの変化や行動がどのようにコントロールされているのかを考察する。

回	内　　容
1	神経細胞の基本構造（1）　神経細胞の種類
2	神経細胞の基本構造（2）　神経細胞の基本構造
3	シナプスの基本構造とその機能
4	神経膠細胞の種類とその機能
5	刺激の伝導と伝達のしくみ
6	心身の発達と発育、特に認知・学習・思考・判断・記憶等の脳の高次機能の発達と神経回路網の形成（1）認知
7	心身の発達と発育、特に認知・学習・思考・判断・記憶等の脳の高次機能の発達と神経回路網の形成（2）学習・判断
8	心身の発達と発育、特に認知・学習・思考・判断・記憶等の脳の高次機能の発達と神経回路網の形成（3）記憶
9	神経伝達物質の種類とその機能（1）　セロトニン
10	神経伝達物質の種類とその機能（2）　ドーパミン
11	神経伝達物質の種類とその機能（3）　オキシトシン
12	神経伝達物質の種類とその機能（4）　バゾプレシン
13	神経伝達物質の種類とその機能（5）　β-エンドロフィン
14	神経伝達物質による精神活動および行動への影響（1）　不安・やる気
15	神経伝達物質による精神活動および行動への影響（2）　愛情・愛おしさ
16	

履修上の注意事項 Remarks	この講義で学ぶことは、すべて自分自身の身体に実際におきていることである。知識を得るだけではなく、その知識を自分の精神活動や行動に照らし合わせて理解することが、最も大切なことである。自分が何らかの刺激を受け、それをどのようにして認識しているのか。また、どのような神経経路を経由して自らの行動が発現されているのか。普段の何気ない心の動きや行動も、実は非常に大切な目的のある、理にかなった行動であることを理解し、常に自分の心の変化や行動に興味を持って生活すること。
準備学習 Preparation	・次回の講義内容について、専門用語の意味等を調べ、理解しておく。 ・講義内容を見直し、理解不足の点がないか確認する。特に講義で得た知識を自分の心や身体に重ね合わせ、具体的に理解することが重要である。 １回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	最終レポート（８０%）、講義への参加意欲（２０%）
テキスト Materials	必要に応じてプリントを配布
参考文献 References	適宜紹介
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	後期 偶数年度
担当教員 Instructor	藤田　千鶴子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	教育現場では、いじめ、不登校、発達障害、危機介入など多種多様な問題があり、それらへの支援のニーズに柔軟に対応することが求められている。実践の様子を知り事例を検討することで、スクールカウンセラー等の教育現場で求められる資質について理解し、現在の自分との対比の中で足りないものについて考え、様々な相談に対応できる知識及び技術を身につけることをねらいとする。 １．学校現場で必要とされるスクールカウンセラーとなるために求められる知識及び技術とは何か説明することができる。 ２.カウンセラーとしての資質とは何かについて自分なりに考えることができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	スクールカウンセラー等教育の現場における支援を支える理論及び実際について学ぶ。いくつかの事例について自分なりに調べて発表すること、また受講者同士の議論を通して、支援のあり方について検討する。

回	内　　容
1	教育現場におけるスクールカウンセラー等の業務・学校アセスメントとは
2	いじめに遭った子どもたちとのかかわり
3	いじめ事例を通して（発表形式）
4	不登校を呈する子どもたちとのかかわり
5	不登校事例を通して（発表形式）
6	発達障害のある子どもたちとのかかわり
7	発達障害事例を通して（発表形式）
8	保護者と対面するときの心構え
9	非行・暴力行為を行う子どもたちとのかかわり
10	非行・暴力行為事例を通して（発表形式）
11	コンサルテーション（教師への支援）
12	校内職員研修・校内体制作りのありよう
13	スクールカウンセリングの事例検討（発表形式）
14	危機介入（緊急支援）
15	教育現場における支援とは（まとめ）
16	

履修上の注意事項 Remarks	興味のあるテーマや事例を選び、自分なりに調べて、発表する場を設けている。 発表者はもちろんのこと全員が積極的に質問をし、議論に参加すること。
準備学習 Preparation	次回のテーマと関連する配布資料等を、事前に読んでおくこと。 復習しやすいように、資料やノートをまとめておくこと。 １回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	期末レポート 70%、プレゼンテーション 10%、学習態度（議論への参加度を含む）20% レポート課題：「スクールカウンセラーに求められる資質とは」
テキスト Materials	村山正治・滝口俊子編(2012)『現場で役立つスクールカウンセリングの実際』創元社（全員購入）
参考文献 References	村山正治・滝口俊子編(2007)『事例に学ぶカウンセリングの実際』創元社 その他適宜紹介する。
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	前期 奇数年度
担当教員 Instructor	中村　誠文	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	家族関係・集団・地域社会への心理支援を考えていく際に“システム”という視点は重要である。システム論やコミュニケーション理論を柱としている家族療法を学び、それと同時に家族療法から派生した短期療法のものの見方や考え方を理解する。そして、臨床心理学の一分野として発展を続ける家族療法と短期療法の理論をふまえ、実践的な学びから臨床家としての姿勢、知識と技能を身につけていくことが目的である。 1. 家族療法・短期療法の基礎的な概念について述べることができる。 2. 家族療法・短期療法の理論と援助法について理解することができる。 3. 臨床家としての姿勢を身につけることができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	授業は、講義と発表を中心とし、家族療法・短期療法のいくつかのアプローチについての発表や実際の家族面接を取り扱いながら、議論し内容を深めていく。

回	内　　容
1	心理療法の歴史における家族療法の位置づけ
2	家族療法とは
3	構造派
4	多世代派
5	MRI コミュニケーション派
6	Solution Focused Approach
7	ナラティブ・アプローチ
8	リフレクティング・プロセス
9	ダブルディスクリプション・モデル
10	家族のアセスメント
11	臨床的アプローチの実際
12	構造派による家族面接
13	Solution Focused　Approach による家族面接
14	MRI コミュニケーション派による家族面接
15	まとめ
16	

履修上の注意事項 Remarks	第３回～第９回については担当者を決め、担当者が各アプローチについて調べ、紹介を行うことを求める。 意見や質問など積極的に発言すること。
準備学習 Preparation	配布資料は、ファイルにまとめ、いつでも復習しやすいようにしておくこと。 発表担当者は、課題テーマの発表準備をおこなうこと。 １回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	評価は、「関心・意欲の程度をみる授業への取り組み」（20%）、「プレゼンテーション」（30%）、「講義を通しての気づきや思考力をみる学期末の課題レポート」（50%）の総合評価とする。
テキスト Materials	配布資料あり。
参考文献 References	若島孔文・長谷川啓三著（2000）『短期療法ガイドブック』金剛出版 東豊・水谷久康・若島孔文・長谷川啓三著（2014）『匠の技法に学ぶ　実践・家族面接』日本評論社
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	被害者臨床援助特論	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	前期 奇数年度
担当教員 Instructor	餅原　尚子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	本講義では、被害者の心理に視点をあてる。特に自然災害（地震、土石流等）、人的災害（犯罪被害、虐待、事故等）による心理的影響を理解し、危機介入、コミュニティ・アプローチを含めた真の臨床援助のありようを理解する。特に、心理臨床の集大成ともいわれるポスト・トラウマティック・カウンセリングの理論を学び、事例を通して臨床家自身の人格、専門性、臨床的センスを習得することを到達目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	被害者の心理に視点をあて、自然災害や人的災害による心理的影響等やポスト・トラウマティック・カウンセリングの理論について、緊急支援等の心理臨床の実践を通して概説を行う。

回	内　　容
1	被害者支援とは
2	被害者支援の現状と課題 ・危機介入のありよう　・Traumatic Events 後の状況
3	被害者の「トラウマ」 ・乳幼児　・児童生徒　・成人　・高齢者（高齢者虐待）
4	人的災害 ・事件（犯罪）・事故・災害　・虐待、DV　・ストックホルム症候群、トラウマティック・ボンディング
5	自然災害 ・阪神淡路大震災　・東日本大震災　・熊本地震　等
6	二次的（間接的）被災 ・CIS（惨事ストレス）　・共感疲労　・二次受傷
7	他の障害との関連 ・解離性障害　・パニック障害　・パーソナリティ障害　・うつ病　等
8	緊急支援 ・サイコロジカル・ファーストエイド　・直後、短期、中期、長期的展望に立った支援 ・コミュニティ・アプローチ（流言飛語、誹謗中傷等）
9	トラウマと障害者 ・障害者虐待
10	ＰＴＳＤ（Post-traumatic　Stress　Disorder）
11	ポスト・トラウマティック・カウンセリング
12	被害者への臨床援助的接近
13	スクール・トラウマとその支援 ・Wise Before the Events　・緊急支援　・関係機関との連携
14	レジリエンスと PTG（Post-traumatic Growth）
15	まとめ
16	

履修上の注意事項 Remarks	自主的に取り組むこと。
準備学習 Preparation	被害者支援に関する法律等を理解しておくこと。１回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	口頭発表５０％とレポート５０％。目標を達成しているかどうかが評価の視点となる。
テキスト Materials	久留一郎著（2008）『PTSD:ポスト・トラウマティック・カウンセリング』駿河台出版（全員購入） 久留一郎・餅原尚子著（2019）『臨床心理学-「生きる意味の確立」と心理支援-』八千代出版（全員購入）
参考文献 References	『トラウマティック・ストレス』日本トラウマティック・ストレス学会誌など
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	前期 奇数年度
担当教員 Instructor	宇都宮　敦浩	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	司法・犯罪分野における根拠法令や関係法令について基礎的な知識を身に付け、法的な枠組みや制度について理解を深めるとともに、犯罪心理学、犯罪精神医学、犯罪社会学、少年非行等に関する犯罪理論や再犯防止のための処遇、リスクアセスメント、心理テストの活用、鑑別と鑑定、加害者家族への支援と現状等の各論について学び、司法・犯罪分野に関わる臨床心理士及び公認心理師の実践について学習することを到達目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	前半の授業は、各種の司法制度や児童福祉法、医療観察法等の関連する法律について概観した後、犯罪と非行に関する様々な理論を文献資料をもとに総論的に学習する。後半の授業は、薬物依存者へのグループアプローチや性犯罪者に対するリスクアセスメント、心理テストを活用した少年非行理解、重大事件における鑑別と鑑定、加害者家族への支援と現状、災害と犯罪等について実務例、実践例、研究例を中心とした演習を通して学びを深める。

回	内　　容
1	主として少年法、少年鑑別所法、刑法、刑事訴訟法を中心に学び、司法・犯罪分野における根拠法令と司法制度について理解を深める。
2	主として少年法を中心として、関連する児童福祉法、医療観察法、精神保健法等の概略について学び、法的枠組が異なる他機関との連携について理解を深める。
3	犯罪白書等の統計資料から昨今の司法・犯罪分野における中心的な課題を探り、特に高齢受刑者の増加や障害を抱える受刑者の社会復帰、再犯防止対策といったテーマを取り上げて考察を深める。
4	犯罪・非行のメカニズム１～ロンブローゾに始まる各種の古典的犯罪理論を通じて概観した後、学習理論派、精神分析理論派、社会心理学派の犯罪理論について理解を深める。
5	犯罪・非行のメカニズム２～発達的視点からの犯罪理論を概観し、特に情緒障害理論、自我同一性理論、対人成熟理論、臨床心理学的非行理論について理解を深める。
6	犯罪・非行のメカニズム３～セントラル８、ビッグ４といった再犯リスク要因を導き出した最新の犯罪理論を概観するとともに、RNR 原則（リスク、ニーズ、レスポンシヴィティ）に基づいた矯正処遇について学ぶ。
7	犯罪社会学～アメリカを中心として発展した犯罪社会学について概観し、特にアノミー理論、分化接触理論、分化同一化理論、副次文化理論、ドリフト理論、社会的絆理論について、理解を深める。
8	薬物依存者へのアプローチ～薬物犯罪の動向や特徴を確認しつつ、DARC における薬物依存者の様子やグループアプローチについて学ぶ。
9	高齢者と犯罪～高齢者の犯罪の特徴や研究について統計や研究について統計資料や文献資料を中心に概観し、その支援と対策のあり方について学ぶ。
10	少年鑑別所における心理臨床～少年鑑別所における観護処遇や資質鑑別、地域社会への援助活動について、担当教員の実務経験を踏まえ、演習を通して学ぶ。
11	刑事施設における心理臨床～刑事施設における矯正処遇や分類調査、性犯罪調査について、担当教員の実務経験を踏まえ、演習を通して学ぶ。
12	矯正施設で活用されている心理テスト～家族画、雨の中の人物画、風景構成法等の描画テストを用い、非行・犯罪臨床における心理テストの活用について、演習を通じて学ぶ。
13	加害者家族の現状と支援～近年注目を集めつつある加害者家族の現状とその支援のあり方について、文献資料を中心に学ぶ。
14	災害と犯罪～大地震や台風、豪雨等の自然災害に対する防災や減災については、現在多くの研究や活動がなされているが、最近注目されているのが災害後の犯罪とその防止に関する研究であり、その内容について概説する。
15	精神鑑定事例～理解が難しいとされる少年による重大犯罪について精神鑑定事例を取り上げ、その検討を通じてアセスメントの実際を学ぶ。
16	

履修上の注意事項 Remarks	授業は講義形式のほか、演習形式や討議形式を取り入れて行う回もあるので、積極的に参加すること。
準備学習 Preparation	担当教員が事前に文献資料や統計資料を配布するので、授業開始までに目を通しておくこと。１回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	レポート５０％、受講態度３０％、発表・質問２０％として総合的に評価する。
テキスト Materials	使用しない。
参考文献 References	法務省矯正研修所編（2013）『矯正心理学』公益財団法人矯正協会 高木　清著（2008）『非行少年の世界と周辺』太陽出版 阿部恭子編著（2015）『加害者家族の支援の理論と実践』現代人文社 福島章編著（1999）『現代の精神鑑定』金子書房 斉藤豊治編（2013）『大災害と犯罪』法律文化社
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	福祉行政総論	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	後期 偶数年度
担当教員 Instructor	井上　祐子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	（1）家庭や学校、職場などへの地域援助に取り組む際の一助になる、保健・医療・福祉行政について理解できる。 （2）保健・医療・福祉行政における、他職種との連携について理解できる。	
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	本授業では、生存権と社会保障、社会福祉法制、社会福祉行政、臨床心理行政、更生保護制度、他職種連携、地域援助、権利擁護等について学ぶ。	
	回	内　　容
	1	オリエンテーション ・授業の意義、到達目標について 生存権と社会保障 ・日本国憲法第25条
	2	社会福祉法制の概要 ・福祉六法
	3	我が国における社会福祉行政の歴史的展開 ・医療保障　・所得保障
	4	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ ・少年法　　・少年院法
	5	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係（その１） ・臨床心理行政（刑事司法と更生保護制度）
	6	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係（その２） ・臨床心理行政（司法・医療・福祉の連携）
	7	医療観察法の概要と実際 ・臨床心理行政（医療観察法）
	8	専門機関による援助の違い ・他職種連携
	9	地域援助の概要（その１） ・コミュニティワーク
	10	地域援助の概要（その２） ・予防の考え方　　・支援モデル
	11	地域援助に関連する主な福祉の概念（その１） ・ノーマライゼーション　・ソーシャル・インクルージョン　等
	12	地域援助に関連する主な福祉の概念（その２） ・自己決定　　・パートナーシップ　等
	13	相談援助における権利擁護 ・成年後見制度　　・任意後見制度　等
	14	危機介入とソーシャルネットワーク ・精神保健福祉法
	15	スーパービジョンとコンサルテーション ・専門職間の連携とサポート
	16	
履修上の注意事項 Remarks	授業ノート、配布プリントを紛失しないよう、整理すること。	
準備学習 Preparation	シラバスを参照し、専門用語などを調べておくこと。１回の授業に対し４時間程度の時間外学習。	
評価方法 Evaluation Method	最終レポート（40%）、発表（40%）、学習態度（20%）により評価する。	
テキスト Materials	必要に応じて資料を配布する。	
参考文献 References	適宜、紹介する。	
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	研究遂行に至る読解力、資料収集、分析能力を持ち、内外へ発信する能力を培っている。	

科 目 名 Subject Name	障害児（者）心理学特論	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	前期 偶数年度
担当教員 Instructor	石井　洋平，餅原　尚子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	生から死（乳幼児期から高齢期）に至るまでのライフサイクルで生じる様々な「障害」に視点をあて、「知的障害」「発達障害」「情緒障害」「人格障害」「精神障害」「高次脳機能障害」「認知症」等の精神病理について、心理臨床家としての人間哲学や心理臨床的アプローチのありようについて理解することを到達目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	主に障害児（知的障害、発達障害、情緒障害等）を餅原担当、障害者（特に精神障害、認知症、高次脳機能障害等）を石井担当で以下の内容に沿って展開する。 餅原は、保健所等での検診、障害児就学相談、特別支援学校・特別支援教育、障害者支援施設等における臨床、厚生労働省の発達障害者専門指導監としての実務経験に基づく業務の実際を活かした内容になる。 石井は、精神科臨床の実務経験に基づく業務の実際を活かした内容になる。

回	内　　容
1	ヨーロッパの障害児（者）の人間観と支援のありよう（餅原） ・障害児（者）観　など
2	障害児の初期徴候（餅原） ・発達の個人差 ・早期査定、早期支援 ・1歳半健診、3歳健診のありよう　など
3	障害児の就学相談（餅原） ・通級指導教室 ・特別支援学級 ・特別支援学校　など
4	発達支援/特別支援教育（餅原） ・相談支援ファイル ・移行支援シート ・合理的配慮 ・協働的アセスメント・協働的発達支援　など
5	障害者の就労支援とメンタルヘルス（餅原） ・障害児・者とトラウマ ・周囲のありよう（カサンドラ症候群）　など
6	精神障害者（統合失調症）について（石井）
7	精神障害（気分障害）について（石井）
8	精神障害の早期発見・早期支援（石井）
9	精神科入院形態と病棟での心理職の役割（石井）
10	精神障碍者の退院支援と地域生活支援（石井）
11	認知症の病態と症状（石井）
12	認知症のアセスメント（石井）
13	認知症のケア（石井）
14	認知症に関する施策（石井）
15	高次脳機能障害について（石井）
16	

履修上の注意事項 Remarks	自主的に取り組むこと。
準備学習 Preparation	シラバスを参照し、配付された資料等を熟読し、専門用語等を調べ、説明できるように準備しておくこと。 講義終了後は、ファイルを作成し、いつでも復習できるようにしておくこと。 １回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	到達目標に対して、心理臨床家としての人間哲学や心理臨床的アプローチのありようについて理解しているかが評価の視点になる。発表 30%、関心・意欲の程度をみる講義への取り組み 40%、障害児・者の精神病理とそのアプローチについての理解力をみる学期末の課題レポート 30%の総合評価とする。
テキスト Materials	久留一郎・餅原尚子著（2019）『臨床心理学ー「生きる意味の確立」と心理支援ー』（八千代出版）
参考文献 References	適宜、紹介する。
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	小児保健特論	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	前期 奇数年度
担当教員 Instructor	福永　知久	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	子どもと家族の成長発達や生活環境について理解を深めるために、発達理論、コーピングの理論、セルフケアの理論、ソーシャルサポートの理論、家族の理論などを探求する。また、変化する社会の中で、様々な課題を抱える子どもと家族の支援について検討し、理論の適用について考察する。 1.小児期における心身の発達について説明できる 2.環境に適応するためのメカニズムについて説明できる 3.現象を演繹的に捉える方法としての子どもの発達理論を説明できる 4.捉えた現象を実践に結びつける際の手がかりとなるコーピング、セルフケア、ソーシャルサポート、家族等の理論について説明できる 5.小児期にみられる諸課題を理解し、支援のあり方について考えることができる
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	・学生による発表と討論を中心に進める講義であり、十分な事前学習を行い、主体的に授業に取り組む。 ・それぞれの授業のリーダーシップをとる学生は、担当教員と事前に打ち合わせを行いながら、授業が円滑に進むように準備を行う。 ・小児保健領域における、看護師、保育士、幼稚園教諭、社会福祉士としての実務経験による具体的な事例を挙げながら授業を展開する。

回	内　　容
1	オリエンテーション（概要説明とレポートテーマ選択）、理論とは
2	発達理論から子どもの発達を捉える①各理論の概要把握
3	発達理論から子どもの発達を捉える②フロイト
4	発達理論から子どもの発達を捉える③エリクソン
5	発達理論から子どもの発達を捉える④ピアジェ
6	発達理論から子どもの発達を捉える⑤ボウルビィ
7	発達理論から子どもの発達を捉える⑥ハヴィガースト、ブルーナ、ウィニコット
8	概念枠組みを用いて支援を考える①コーピングの理論
9	概念枠組みを用いて支援を考える②セルフケアの理論
10	概念枠組みを用いて支援を考える③ソーシャルサポートの理論
11	概念枠組みを用いて支援を考える④家族の理論
12	様々な課題を抱える子どもと家族の支援事例①
13	様々な課題を抱える子どもと家族の支援事例②
14	様々な課題を抱える子どもと家族の支援事例③
15	様々な課題を抱える子どもと家族の支援事例④
16	

履修上の注意事項 Remarks	課題、レポートに臨む際は文献を元に資料を作成すること
準備学習 Preparation	・子どもと家族や保健に関わる事象に関心を持ち、関連する記事があれば目を通しておくこと ・小児保健に関わる書籍を図書館など利用して読んでおくこと ・具体的な学習内容については、授業ごとに指示する ・１回の授業に対し４時間程度の時間外学習
評価方法 Evaluation Method	レポート（40%）、発表（40%）、学習態度（20%）で評価
テキスト Materials	必要に応じて資料を配布
参考文献 References	適宜紹介
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	保健医療分野に関する理論と支援の展開	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	前期 偶数年度
担当教員 Instructor	井上　賢人	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	臨床心理学的面接において見立てを行うことと同様に、本邦の臨床精神医学においてWHOの刊行しているICD-10による診断を行うこととなっている。2018年6月ICD-11がVersion for Implementationとして発表され、2019年5月末にWHOで承認され、日本語訳は2020年以降に発刊予定である。また、2016年 5月に米国精神医学会による診断・統計マニュアルであるDSM-5の日本語版が出版された。これに関連して、日本語病名について日本精神神経学会にて検討され変更、統一されたものもある。この講義では、これまでの精神医学の歴史、症候学、検査、精神保健福祉、薬剤について概説を行う。各論については、テキスト、DSM-5 等を参考にしつつ学生にプレゼンテーションしていただく。これにより、学生が精神医学についての概要を理解し、疾患について理解し説明ができるようになることを目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	第1回から第5回までは総論的な講義を行い、第6回から第15回まではテキスト、DSM-5を参考にしつつ各論について学生にプレゼンテーションを行っていただく。精神科病院および精神科クリニックにおける実務経験による事例を含んだ内容になる。

回	内　　容
1	オリエンテーション（授業の概要の説明とプレゼンテーションのテーマの選択）
2	精神医学の歴史、脳科学と精神医学についての概説を行う。（テキスト第1～2章）
3	精神機能とその異常、精神発達について概説を行う。（テキスト第3～4章）
4	精神医学的診察と診断、精神科治療学について概説を行う。（テキスト第5～6章）
5	コンサルテーション・リエゾン精神医学、精神医療と社会について概説を行う。（テキスト第7～8章）
6	第6回～第15回まではテキスト及びDSM-5を用いた各論についてプレゼンテーションを行い、その内容についての説明やディスカッションを行う。
7	第6回～第15回まではテキスト及びDSM-5を用いた各論についてプレゼンテーションを行い、その内容についての説明やディスカッションを行う。
8	第6回～第15回まではテキスト及びDSM-5を用いた各論についてプレゼンテーションを行い、その内容についての説明やディスカッションを行う。
9	第6回～第15回まではテキスト及びDSM-5を用いた各論についてプレゼンテーションを行い、その内容についての説明やディスカッションを行う。
10	第6回～第15回まではテキスト及びDSM-5を用いた各論についてプレゼンテーションを行い、その内容についての説明やディスカッションを行う。
11	第6回～第15回まではテキスト及びDSM-5を用いた各論についてプレゼンテーションを行い、その内容についての説明やディスカッションを行う。
12	第6回～第15回まではテキスト及びDSM-5を用いた各論についてプレゼンテーションを行い、その内容についての説明やディスカッションを行う。
13	第6回～第15回まではテキスト及びDSM-5を用いた各論についてプレゼンテーションを行い、その内容についての説明やディスカッションを行う。
14	第6回～第15回まではテキスト及びDSM-5を用いた各論についてプレゼンテーションを行い、その内容についての説明やディスカッションを行う。
15	第6回～第15回まではテキスト及びDSM-5を用いた各論についてプレゼンテーションを行い、その内容についての説明やディスカッションを行う。
16	

履修上の注意事項 Remarks	前向きに取り組むことを期待する。 再試験は行わない。
準備学習 Preparation	担当することになったプレゼンテーションについては、責任を持って用意しておくこと。１回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	授業活動内容（40%），調査・プレゼンテーション（40%），レポート（20%）による総合評価を行う。
テキスト Materials	尾崎紀夫・三村將・水野雅文・村井俊哉（編集）（2021）『標準精神医学　第８版』医学書院（全員購入）
参考文献 References	DSM-5（2014）『精神疾患の分類と診断の手引』医学書院 DSM-5（2014）『精神疾患の診断・統計マニュアル』医学書院 ICD-10（2005）『精神および行動の障害』新訂版　医学書院
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	論理的思考、創造的思考を身につけ、臨床場面での問題点を見つけることができる。

科 目 名 Subject Name	精神薬理学特論	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	前期 偶数年度
担当教員 Instructor	岩田　真一	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	1
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	解剖学、生理学、生化学、内科学などを理解した上で、薬物の作用、臨床応用、特に中枢神経作用薬について理解することを目的とする。 １．薬物の作用機序について説明できる。 ２．薬物の吸収、分布、排泄について説明できる。 ３．代表的な中枢神経作用薬の臨床応用について説明できる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	心理士は患者が服用している薬物についての知識が必要である。そこで、本講座では、薬理学、特に中枢神経作用薬がヒトに作用する機序-精神薬理学-についての基礎知識を概説する。

回	内　　容
1	薬理学総論（1）薬力学（薬物受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター）
2	薬理学総論（2）薬物動態学（薬物の投与経路、薬物の吸収、薬物の分布、薬物の代謝と排泄）
3	薬理学総論（3）薬物相互作用（薬物動態的相互作用、薬力学的相互作用）
4	薬理学各論：自律神経作用薬、循環器作用薬、消化器作用薬など）
5	抗不安薬：GABA 神経系の構造と機能、ベンゾジアゼピン系抗不安薬と非ベンゾジアゼピン系抗不安薬
6	抗鬱薬：うつ病のモノアミン仮説、モノアミン神経系の構造と機能、三環系抗うつ薬、選択的セロトニン受容体阻害薬
7	睡眠薬：睡眠の生理学、不眠の臨床、ベンゾジアゼピン系睡眠薬と非ベンゾジアゼピン系睡眠薬
8	抗精神病薬：統合失調症とは、ドパミン神経系の構造と機能、古典的抗精神病薬と非定型的抗精神病薬
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

履修上の注意事項 Remarks	わからないことは遠慮なく質問すること。
準備学習 Preparation	予習は不要。復習はしっかりしておくこと。１回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	単位認定試験（100%）試験は多肢選択方式であるが、基本的な事項に加えて、臨床の即戦力となれるべく薬物の商品名も重要なものは記憶しているかを問う。
テキスト Materials	適宜配布
参考文献 References	酒井隆編（2019）『こころの治療薬　ハンドブック』　星和書店 井上令一監修（2016）『カプラン臨床精神医学テキスト』メディカル・サイエンス・インターナショナル 仙波純一監訳（2015）『精神薬理学エセンシャルズ』メディカル・サイエンス・インターナショナル
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	研究遂行に至る読解力、資料収集、分析能力を持ち、内外へ発信する能力を培っている。

科 目 名 Subject Name	神経学特論Ⅱ	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	後期 偶数年度
担当教員 Instructor	口岩　俊子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	精神活動の基礎は個々の神経細胞の活動によって行われているが、個々の神経細胞が独立して精神活動を営むわけではない。すべての精神活動は、神経細胞のネットワークが正しく働くことによって実現されている。例えば、思考・判断・理解・創造に代表される高度な精神活動は、大脳皮質と大脳基底核の多くの神経細胞が作り出すネットワークによって行われており、さらに大脳以外の多くの部位に存在する神経細胞もこのネットワークに参加して様々な調節を行っている。神経学特論Ⅱでは、大脳を含むヒトの中枢神経系の構造と機能について学んでいく。さらに、情動活動に強い影響力を持つ自律神経系についての理解を深める。これによって、精神活動の座である脳のしくみについて考察する基礎を養うことを目標とする。 １．中枢神経系の構造と機能について、詳細に理解できる。 ２．自律神経系の構造と機能について、具体的に理解できる。 ３．基本的な精神活動について、脳科学的に考察できる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	この講義では、まずヒトの精神活動の基礎となる大脳皮質と大脳基底核について、最近の構造学的、生理学的、生化学的知見をもとに学んでいく。また、大脳以外の中枢神経系（間脳、脳幹、小脳、脊髄）の構造と機能について理解し、中枢神経系全体の構成と生理作用について学ぶ。さらに、自律神経系の神経回路網と最近の生理学的知見について理解を深める。

回	内　　容
1	ヒトの神経系の分類と概要
2	大脳の構造と各部の機能①　視覚野、聴覚野、体性感覚野
3	大脳の構造と各部の機能②　運動野、言語野
4	大脳の構造と各部の機能③　大脳基底核
5	間脳の構造と各部の機能
6	脳幹（中脳・橋・延髄）の構造と各部の機能
7	小脳の構造と各部の機能
8	脊髄の構造と各部の機能
9	伝導路①　連合性伝導路、後連性伝導路
10	伝導路②　投射性伝導路
11	自律神経系の構造と機能①　交感神経系
12	自律神経系の構造と機能②　副交感神経系
13	各刺激の受容からそれに対応した精神活動、および行動の発現までの情報の流れ①　視覚刺激、聴覚刺激
14	各刺激の受容からそれに対応した精神活動、および行動の発現までの情報の流れ②　痛覚刺激
15	各刺激の受容からそれに対応した精神活動、および行動の発現までの情報の流れ③　その他の刺激
16	

履修上の注意事項 Remarks	この講義で学ぶことは、すべて自分自身の身体に実際におきていることである。知識を得るだけではなく、その知識を自分の精神活動や行動に照らし合わせて理解することが、最も大切なことである。自分が何らかの刺激を受け、それをどのようにして認識しているのか。また、どのような神経回路を経由して自らの行動が発現されているのか。普段の何気ない心の動きや行動も、実は非常に大切な目的のある、理にかなった行動であることを理解し、常に自分の心の変化や行動に興味を持って生活すること。
準備学習 Preparation	特に復習が重要である。授業で得た知識を自分の心や身体に重ね合わせ、具体的に理解すること。
評価方法 Evaluation Method	評価は、最終レポート（80%）、学習参加度（20%）の総合評価とする。
テキスト Materials	必要に応じてプリントを配布
参考文献 References	適宜紹介
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	遊戯療法特論	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	前期 毎年
担当教員 Instructor	餅原　尚子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	人間学的心理療法の立場に立脚し、「遊び」を媒介にした子どもの心理療法を学ぶ。特に、遊戯療法について、その理論、治療目標、治療仮説を理解し、人間の独自性を尊重し、自己実現的変化を促進するような面接者（心理臨床家）としてのありようを感得することを到達目標とする。また、実際の場面を観察しつつ、学内実習で、実際に遊戯療法を体験できるようになることがねらいである。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	アクスラインの遊戯療法の８つの原理については、発表を中心とする。 大学院の心理臨床相談センター、緊急支援時の子どもへのカウンセリング、スクール・カウンセリング、実務経験に基づく業務の実際を活かした内容になる。

回	内　　容
1	心理療法の３つの治療仮説（オリエンテーション）：精神分析療法・行動療法・人間学的心理療法（来談者中心療法）の症状の理解と治療仮説
2	治療構造（外的治療構造・内的治療構造）
3	セラピストとしての態度 ・道徳原則　・倫理　・スーパーヴィジョン
4	セラピストの透明性 「自己洞察（きづき）」「自己受容（うけいれ）」「自己一致（うごき）」 ・セラピストの受容性、共感性
5	遊戯療法の原理（治療目標/治療仮説） ・「あそび」のもつ意味
6	遊戯療法の対象者 遊戯療法の治療的効果：プロセス・スケール
7	・治療的場としてのプレイ・ルーム　・治療的意味を深める遊具の選択 ・治療契約：時間と回数　・遊戯療法のプロセス　・観察・記録と臨床的視点
8	アクスラインの遊戯療法の８つの原理 ＊精神的風土 （1）ラポール
9	アクスラインの遊戯療法の８つの原理 （2）あるがままの受容 （3）あたたかくおおらかな雰囲気
10	アクスラインの遊戯療法の８つの原理 （4）正確な認知と適切な反射 （5）自発性の尊重
11	アクスラインの遊戯療法の８つの原理 （6）自己決定、自己選択の尊重 （7）クライエントのペースの尊重
12	アクスラインの遊戯療法の８つの原理 （8）制限と禁止（人としての責任）
13	遊戯療法の親子並行面接の重要性 総括（スーパーヴィジョンの重要性）とレポート作成
14	ポスト・トラウマティック・カウンセリング ・事件・事故・災害・虐待等による子どものカウンセリング
15	遊戯療法の実際
16	

履修上の注意事項 Remarks	「ロジャース全集」（岩崎学術出版社）を読んでおくこと。 可能な限り、１年次、２年次で、学部開講の「教育相談（カウンセリングを含む）の理論と方法（前期開講）」を受講すること。
準備学習 Preparation	シラバスを参照し、テキストを熟読し、専門用語等を調べておくこと。 講義終了後は、ファイルを作成し、いつでも復習できるようにしておくこと。 １回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	到達目標に対して遊戯療法の治療目標、治療仮説等の理解ができているかを中心に評価する。発表 30%、関心・意欲の程度をみる講義への取り組み 40%、アクスラインの遊戯療法の８つの原理についての理解度をみる学期末のレポート 30%の総合評価とする。
テキスト Materials	アクスライン著（1972）『遊戯療法』岩崎学術出版社（全員購入） 久留一郎・餅原尚子著（2019）『臨床心理学-「生きる意味」の確立と心理支援-』八千代出版（全員購入）
参考文献 References	アレン著（1955）『問題児の心理療法』みすず書房 ムスターカス著（1973）『児童の心理療法』岩崎芸術出版社
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	精神分析的面接特論	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	前期 奇数年度
担当教員 Instructor	石井　洋平	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	この講義においては、精神分析理論の概要、精神分析的心理療法の方法の概要を理解することを目的とする。 （1）精神分析諸理論の概要を説明できる。 （2）精神分析的な視点や理解の枠組みを身につける。 （3）現代における精神分析の存在意義について説明できる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	精神分析とは何かを理解し、精神分析的心理療法の考え方、アセスメント、支援の方法の基礎を学ぶ。前田重治著「新図説精神分析的面接入門」（2014）を教科書とし、発表担当者が、自分の担当箇所について教科書およびその他文献を引用しながら話題提供を行い、受講生同士で討論を重ねながら、精神分析的面接法についての理解を深める。

回	内　　容
1	オリエンテーション
2	精神分析とは
3	精神分析的面接とは何か
4	自我とは何か
5	自我のアセスメント
6	アセスメントの実際
7	精神分析的面接の基礎知識
8	精神分析的面接とは，治療構造，対象と方法，面接者の態度とラポール
9	転移と逆転移，抵抗
10	解釈，洞察
11	実際の進め方ー支持的介入
12	実際の進め方ー分析的介入
13	面接の経過
14	治療要因
15	まとめ
16	

履修上の注意事項 Remarks	テキストを中心に進めますが，積極的に討議に参加し，自分の意見を述べること。
準備学習 Preparation	テキストを事前，事後に読んでおくこと。わからない用語は予め調べておくこと。 1 回の授業に対し 4 時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	授業態度（意欲・関心）20%、資料紹介や発表及びディスカッション内容 30%、出席 50%により総合的に評価する。
テキスト Materials	前田重治著（2014）『新図説精神分析的面接入門』　誠信書房
参考文献 References	適宜紹介する。
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	前期 奇数年度
担当教員 Instructor	石井　宏祐	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	①産業・労働分野における心理職の役割を述べることができる。 ②産業・組織に関する心理学について説明できる。 ③産業・労働分野に関する法律、制度について説明できる。 ④産業・労働分野の心理社会的課題について説明できる。 ⑤産業・労働分野の心理臨床技法を実践することができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	産業・労働分野は、心理職の関与が求められる代表的分野のひとつである。職場や労働上で生じる心理的問題への必要な支援に関する理論と技法を修得できるよう、講義と討論とロールプレイで展開していく。

回	内　　容
1	オリエンテーション
2	産業・労働分野の公認心理師
3	産業・労働分野の心理社会的課題
4	産業・労働分野の心理臨床技法
5	産業・組織に関する心理学
6	産業・労働分野に関する法律
7	産業・労働分野に関する制度
8	事例検討「事故・災害対応」「教師の復職支援」
9	事例検討「守秘義務の例外」「大人の発達障害」
10	事例検討「ハラスメント防止対策」「社内配置転換の要望」
11	事例検討「昇進ストレス」「職場復帰支援」
12	事例検討「定年とキャリア」「アディクション」
13	デモンストレーション
14	ロールプレイ
15	グループミーティング
16	

履修上の注意事項 Remarks	この科目は、講義と討論とロールプレイで構成される。意見や質問など意欲的に発言すること。またロールプレイにも積極的に取り組むこと。 なお、再試験は行わない。
準備学習 Preparation	指定教科書をあらかじめ熟読しておくこと。１回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	レポート 40%、グループワーク 40%、学習態度 20%で評価する。
テキスト Materials	①指定教科書　　平木典子ほか（2019）『公認心理師分野別テキスト５産業・労働分野』創元社　　（全員購入） ②配付資料　　指定教科書のほかに資料集を配付する。
参考文献 References	三浦由美子ほか（2018）『産業・組織カウンセリング実践の手引き』遠見書房 金井篤子ほか（2019）『産業・組織心理学を学ぶ』北大路書房
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	心の健康教育に関する理論と実践	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	後期 奇数年度
担当教員 Instructor	石井　洋平	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	心の問題は広く人間一般に共通する問題でもあり、その予防や啓発活動の実践が望まれている。本講義では様々な領域、現場における心の健康教育に関する高度な理論や実践を学び、心理援助職としてどのような実践を行うことができるかについて考えることを目的とする。 （1）心の健康教育とはどのようなものかについて、具体的に説明することができる。 （2）心の健康教育の実践例について具体的に調べ、説明することができる。 （3）各種分野における心の健康教育ニーズについて考えることができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	様々な領域、現場における心の健康教育に関する理論や実践について、講義及び討論により理解を深める。 最終的には、受講者自身が心理専門職としてどのような心の健康教育実践を行うことができるかについて、発表とディスカッション活動を通して、高度な問題解決方法を考案できることを目標とする。

回	内　　容
1	授業概要及び目的を理解し、心の健康教育の位置づけと公認心理師の役割について学ぶ。
2	「心の健康」とは何かを知り、「心の健康教育」に関する現場のニーズを知る。 自己との関わりを深め、ライフスキルの基礎的理論についても学びつつ、様々な予防開発的な取り組みを知り、新たな課題を見いだす。
3	心の健康教育を支える理論（1）　カウンセリング心理学の理論と実践概要を理解し、他者と適切に関わるスキルを学ぶ。
4	心の健康教育を支える理論（2）　コミュニティ心理学の理論と実践概要を理解し、予防の概念を取り入れた共生及び相互扶助を実現する取り組みについて学ぶ。
5	心の健康教育を支える理論（3）　学校心理学の理論と実践概要を理解し、教育相談との関連や学校組織の抱える様々な課題への取り組みについて学ぶ。
6	心の健康教育の実践(1)保健医療分野における実践的取り組みについて調べ、現状と課題について討論する。
7	心の健康教育の実践(2)福祉分野における実践的取り組みについて調べ、現状と課題について討論する。
8	心の健康教育の実践(3)教育分野における実践的取り組みについて調べ、現状と課題について討論する。
9	心の健康教育の実践(4)司法・犯罪における実践的取り組みについて調べ、現状と課題について討論する。
10	心の健康教育の実践(5)産業・労働分野における実践的取り組みについて調べ、現状と課題について討論する。
11	保健・医療分野における実践について各自が調べてきた資料を基に問題点を見出し、新たなニーズを考える。
12	福祉分野における実践について各自が調べてきた資料を基に問題点を見出し、新たなニーズを考える。
13	教育分野における実践について各自が調べてきた資料を基に問題点を見出し、新たなニーズを考える。
14	司法・犯罪分野における実践について各自が調べてきた資料を基に問題点を見出し、新たなニーズを考える。
15	産業・労働分野における実践について各自が調べてきた資料を基に問題点を見出し、新たなニーズを考える。
16	

履修上の注意事項 Remarks	心の健康教育においては、様々な「支援を要する者及びその関係者」との関わりにおいてファシリテーターとしての活躍が求められるため、グループディスカッションの進行役を積極的に担当することを求める。
準備学習 Preparation	授業で紹介する資料、あるいは関連すると思われる文献および文芸作品等について、常に自ら検索して触れること。そして、自分なりに考察を深め、人に紹介するレポート課題を適切に作成すること。専門用語等は事前に調べ、関連する国内外の論文に積極的に触れること。配布資料を整理し、毎回復習すること。 １回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	授業態度（意欲・関心）30%、資料紹介や発表及びディスカッション内容 40%、到達目標（1）～（3）を通して考察を深めたレポートの完成度 30%により総合的に評価する。
テキスト Materials	適宜紹介する。
参考文献 References	適宜紹介する。
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	文化人類学特論	配当年次 Assigned Year		開講時期 Semester	前期 偶数年度
担当教員 Instructor	小島　摩文	授業形態 Lecture Seminar and Practice	講義	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	授業のねらい 本講義では、文化人類学・民俗学の立場から人間を理解できるようになることを目的としている。 人間は社会的な動物である。人と人との繋がりの中に人間はいる。その繋がりの総体としての社会を、文化人類学と民俗学は、生活という視点から観察できるようにする。 そしてその生活とは、ある日突然はじまったものではなく、歴史の流れの中に存在している。 そうした歴史的な背景をもっている生活を見ることから人間を理解するできるようになる。

授 業 の 展開計画

Outline of Class Sessions

関連する論文をよみ、質問と解説を積み重ねながら、論文を理解する。

回	内　　容
1	1，文化人類学と民俗学　[1] 初学者のために文化人類学と民俗学についてガイダンスする。
2	2，柳田国男のこども観　[2-4] 柳田国男の「ウソと子供」を読み解きながら日本人が培ってきたこども観を考える。
3	2，柳田国男のこども観　[2-4] 柳田国男の「ウソと子供」を読み解きながら日本人が培ってきたこども観を考える。
4	2，柳田国男のこども観　[2-4] 柳田国男の「ウソと子供」を読み解きながら日本人が培ってきたこども観を考える。
5	3，しぐさと文化　[5-7] 柳田国男の「涕泣史談」を読み解きながらしぐさと文化について考える。
6	3，しぐさと文化　[5-7] 柳田国男の「涕泣史談」を読み解きながらしぐさと文化について考える。
7	3，しぐさと文化　[5-7] 柳田国男の「涕泣史談」を読み解きながらしぐさと文化について考える。
8	4，説話の語るもの　[8-10] 河合隼雄の「昔話の残酷性について」
9	4，説話の語るもの　[8-10] 河合隼雄の「昔話の残酷性について」
10	4，説話の語るもの　[8-10] 河合隼雄の「昔話の残酷性について」
11	5，家族とはなにか　[11-13] 柳田国男の「外で飯食う事」を読み解きながら家族について考える。
12	5，家族とはなにか　[11-13] 柳田国男の「外で飯食う事」を読み解きながら家族について考える。
13	5，家族とはなにか　[11-13] 柳田国男の「外で飯食う事」を読み解きながら家族について考える。
14	6，信仰と癒し　[14-15] 講義担当者の「シャーマンの儀礼的女性化について」を読み解きながら共同体と信仰・癒しとについて考える。
15	6，信仰と癒し　[14-15] 講義担当者の「シャーマンの儀礼的女性化について」を読み解きながら共同体と信仰・癒しとについて考える。
16	

履修上の注意事項 Remarks	特になし
準備学習 Preparation	予習として、事前にプリントを配付するので、良く読み込み、質問を考える。1 回の授業に対し 4 時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	授業態度：発問の有無、内容、その他授業態度　50% レポート：学期末にレポート提出　50%
テキスト Materials	配付資料あり
参考文献 References	柳田国男(1997-2015)『柳田國男全集』筑摩書房 河合隼雄(1995)『日本人とアイデンティティ』講談社 河合隼雄(2002)『昔話と日本人の心』岩波現代文庫
ディプロマポリシー Diploma Policy -related point	研究遂行に至る読解力、資料収集、分析能力を持ち、内外へ発信する能力を培っている。

科 目 名 Subject Name	臨床心理基礎実習	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	藤田　千鶴子, 石井　洋平, 笹川　裕美, 小田奈緒美, 四元　真弓, 児玉　さら	授業形態 Lecture Seminar and Practice	実験・実習・実技	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	依拠する方法やフィールドを問わず心理臨床家を目指す者すべてに求められる「人」として、また「社会人」としての基本的態度や姿勢、ならびに「心理の専門家」としての資質や基礎的な技能等を、体験的な学習を通して習得することを到達目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	《通年》 　大学院に設置されている心理臨床相談センターでの相談業務について理解し、実際の相談場面を観察・陪席することにより、2 年次のケース担当にむけて、心理臨床に携わる者としての基本的姿勢や態度、ならびに基礎的な実践技能を体験的に習得する。 ＜前期＞ １）心理臨床家としての基本的態度の習得 ①基本的対人態度 ・人としてのマナー、エチケットなど ・心理臨床家としての基本的資質 ・相談受付：挨拶・電話の応対の仕方など ・附属心理臨床相談センターの治療構造及び個人情報の保護、守秘等に関するガイダンス ②インテークの基本技術 ・受理面接の方法、記録の作成、受理会議への報告について ③心理臨床家の倫理 ・治療構造の理解、ネットワークの活用と留意事項 ・守秘義務、人権、インフォームド・コンセントの考え方 ④臨床の感受性を高める ・感受性訓練や各種技法の体験学習 ⑤臨床現場の現状を学ぶ ・学校臨床（スクールカウンセリング）・学生相談 ・緊急支援 ・精神科臨床 ⑥学外実習施設の視察・見学（精神科病院，福祉施設） ⑦地域支援活動の一環としての公開講座の企画・運営への参加 ＜後期＞ ２）臨床心理の基本的技術：臨床心理の基本的技術を身につけ、臨床心理実習、心理実践実習につながる準備とする。 ①コミュニケーション力を身につける。 ②事例のよみかた・みかた ・モデル事例の報告書などをよみ、検討をおこない、ケース・カンファレンスについて学ぶ。 ③ロールプレイによる模擬体験をする。 ・試行的心理面接（ロールプレイ）を行い、録画・録音により逐語録を作成し、検討を行う。その際、教員によるファシリテイトや助言を受けることにより、スーパービジョン体制について体験する。 ④学内実習 ・学内に設置されている心理臨床相談センターのケースを観察し、実際の相談活動をケースカンファレンスや集団スーパーヴィジョンを通して理解する。
履修上の注意事項 Remarks	２年次開講の「臨床心理実習」に、オブザーバーとして参加すること。 公認心理師・臨床心理士としての美質を意識しておくこと。
準備学習 Preparation	各回のテーマに関する事前学習ならびに振り返りレポート作成の事後学習を課す。
評価方法 Evaluation Method	各回および最終レポート 70%、関心・意欲の程度をみる実習への取り組み 30%の総合評価とする。
テキスト Materials	必要に応じて随時指示する。
参考文献 References	適宜紹介する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	心理実践実習Ⅰ	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	中村　誠文, 藤田　千鶴子, 餅原　尚子,　石井洋平	授業形態 Lecture Seminar and Practice	実験・実習・実技	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	保健医療、福祉、教育領域での実習を行い、それぞれの施設の概要や心理職の役割・機能を理解し、実際の心理支援を要する人との関わりを通して心理臨床家に必要な姿勢や態度を身につける。また、学内心理臨床相談センターでの相談業務について理解し、実際のケースの観察・陪席、ケースを担当し、スーパーヴィジョン及びケースカンファレンスを受けながら、心理臨床家としての基本的姿勢や態度、並びに基礎的な実践技能を体験的に習得することを目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	授業は、演習を中心に展開し、大学院相談センター等での公認心理師・臨床心理士としての実務経験、業務の実際を取り入れた内容となる。 (1) 学内外の実習についてのオリエンテーション（18 時間） ・倫理綱領について ・実習生としてのマナーについて ・公認心理師・臨床心理士の業務内容について ・学外実習先等の概要 (2) 見学実習（12 時間） ・福祉領域における実習（1 施設　3 時間） ・司法・犯罪領域における実習（2 施設　6 時間） ・産業・労働領域における実習（1 施設　3 時間） (3) 学外実習（70 時間） ・保健医療領域 or 福祉領域における実習（5 日間：35 時間） ・教育領域における実習（5 日間：35 時間） (4) 学内実習（40 時間のうち担当ケース時間 10 時間） ・観察実習（実際の相談場面の観察や陪席） ・担当ケース実習（担当ケースの個人・集団スーパーヴィジョン、ケースカンファレンスを受ける） ・学内実習ケースの合同・個別カンファレンスへの参加 (4) 心の健康教育に資する講座の企画・運営（20 時間） (5) 心理臨床相談センター運営（10 時間） ※学外実習時間は、担当ケース時間を記載。 ※学内外実習の合計時間：180 時間のうち担当ケース時間は 80 時間
履修上の注意事項 Remarks	社会人としてのマナーを重視する。 担当したケースのグループ・スーパーヴィジョン、個人スーパーヴィジョンを受けるときは目的意識をもつこと。 ケースカンファレンスにおいても積極的な姿勢で一人ひとりがそのケースについて考えを深めること。
準備学習 Preparation	あらかじめテキストを熟読し、専門用語等を調べておくこと。 ケースカンファレンス・スーパーヴィジョンの記録についてはケースレポートとして提出すること。
評価方法 Evaluation Method	「実習等への参加・態度」（30%）、「ケースレポート等の内容」（70%）で総合的に評価する。
テキスト Materials	下山晴彦編（2003）『臨床心理学全書 第 4 巻 臨床心理実習論』誠信書房
参考文献 References	APA(髙橋三郎/大野裕監訳)（2014）『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』医学書院 WHO（融道夫他訳）（2005）『ICD-10 精神および行動の障害-臨床記述とガイドライン』医学書院 三浦四郎衛他著（2006）『精神科ポケット辞典（新訂版）』弘文堂 ※常時携帯のこと。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）	配当年次 Assigned Year	2年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	藤田　千鶴子，餅原　尚子，石井　洋平，中村　誠文	授業形態 Lecture Seminar and Practice	実験・実習・実技	単位数 Credits	6
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	「臨床心理基礎実習」をふまえ、附属心理臨床相談センターでの学内実習、保健医療・福祉領域での学外実習を通して、実際の臨床心理面接、臨床心理査定等の陪席実習や、所見作成、他のスタッフとの連携、協働など、心理臨床家としてのバランス感覚等を感得する。実習を通して、これまで学んできた心理臨床の基本的な知識や技術が実際の心理臨床の現場でどのように活かされているのか、臨床指導教員等のスーパーヴィジョンやカンファレンスを通じて理解を深め、今後の心理臨床実践に向けての基礎を作り上げることを到達目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	学内・外での実習を中心とし、それぞれの実習指導担当者や指導教員の各領域における公認心理師・臨床心理士としての実務経験、業務の実際を取り入れた内容となる。 （1）学内外実習についての事前事後指導（9時間） ・心理臨床業務について ・倫理綱領について ・実習生としてのマナーについて（服装、挨拶、連絡・報告・相談など） ・実習先概要（根拠法を含む）と業務、実習について （2）学外実習（175時間） 臨床現場の指導担当者のもと、保健医療領域においては、臨床心理査定、臨床心理面接の陪席実習、所見作成、可能であれば心理検査の実施、他職種との連携・協働のありようを学ぶ。福祉領域においては、利用者やスタッフと活動等をともにすることで、利用者との関係づくり、スタッフへのコンサルテーション、連携・協働のありようを学ぶ。 ・保健医療領域における実習（①10日間：70時間） ・福祉領域①における実習（10日間：70時間） ・福祉領域②における実習（5日間：35時間） （3）学内実習（45時間のうち担当ケース15時間） 学内に設置されている心理臨床相談センターで実際の相談活動を体験し、臨床心理査定・臨床心理面接のプロセスを、スーパーヴィジョンやカンファレンスを通して理解する。 ・観察実習（実際の相談場面の観察や陪席） ・心理臨床相談センターにおける担当ケース実習 （学内実習担当ケースの個人・集団スーパーヴジョン、ケースカンファレンスを受ける） ・学内実習ケースの合同・個別カンファレンスへの参加 （4）心の健康教育に資する講座の企画・運営（20時間） （5）心理臨床相談センター運営（20時間） ※学外実習時間は、担当ケース時間を記載 ※学内外実習の合計時間：294時間のうち担当ケース時間は190時間
履修上の注意事項 Remarks	・基本的なこととして、社会人としてのマナーを大切にし、報告、連絡、相談、体調管理を徹底すること。 ・学内実習では、服装を整え、あらかじめ清掃、照明・空気の静穏を保ち、終了後は戸締りを徹底する。 ・個人情報保護法に則り、実習日誌及びケースレポートを記録し、大学院心理臨床相談センター資料室で保管する。 ・学内実習においては、各相談員および客員相談員のケースは均等にケースを担当し、観察・陪席等の偏りがないようにする。 ・ケースに関するケースレポートについては実施後1週間以内を目処に、各ケース担当教員に提出すること。
準備学習 Preparation	ケース担当ならびに陪席、観察等に必要な知識や技術についての事前学習、事後学習を十分に行うこと。
評価方法 Evaluation Method	「実習への取組や態度」（30%）、「ケースレポートの内容及び実習日誌」（50%）、「学外実習先からの評価」（20%）で総合的に評価する。
テキスト Materials	適宜紹介する。
参考文献 References	日本心理臨床学会、日本臨床心理士会、財団法人日本臨床心理士資格認定協会等による倫理綱領等
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	臨床心理実習Ⅱ	配当年次 Assigned Year	2 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	餅原　尚子，中村　誠文	授業形態 Lecture Seminar and Practice	実験・実習・実技	単位数 Credits	2
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習Ⅰ」を通して、大学院に設置されている附属心理臨床相談センター（学内実習）でのケースについて、スーパーヴィジョンを受けながら、「事例研究」論文を作成することを到達目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	担当教員（中村、餅原）の精神科臨床、学校臨床等の心理臨床経験、査読付論文発表等の研究歴等を活かした内容になる。 「臨床心理士」の業務内容である臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助、そして「臨床心理的調査・研究」の集大成として、スーパーヴィジョンを通して事例研究論文を完成させる。 1.心理臨床相談センターでの学内実習（ケース担当、陪席実習、観察実数、アセスメント等）において、随時、ケースレポート等記録を作成し、スーパーヴィジョン（個別・グループ）を定期的に受ける。 2.「事例研究」として、ケースレポート等の記録をまとめ、問題、目的、治療仮説・治療契約、事例の概要・アセスメント・治療経過等をまとめ、考察をする。 3.「事例研究」を論文形式でまとめ、発表（グループ・スーパーヴィジョン形式）する。 4.「鹿児島純心女子大学大学院心理臨床相談センター紀要」の投稿規定に基づき、「事例研究」論文として投稿する。
履修上の注意事項 Remarks	必ず、心理臨床相談センター相談員のスーパーヴィジョン（臨床指導）を定期的に受けること。
準備学習 Preparation	「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習Ⅰ」を再確認しておくこと。 スーパービジョンの重要性（生涯必須の研鑽）を認識し、謙虚な姿勢で臨み、自省しつつ、今後の臨床（心理臨床家としての責任）に活かすことを目指すこと。
評価方法 Evaluation Method	到達目標を達成しているかに視点をあて、評価する。スーパーヴィジョン状況（30%）、事例研究発表（30%）、事例研究論文作成（40%）により総合評価をする。
テキスト Materials	下山晴彦編（2003）『臨床心理実習論』誠信書房(全員購入)
参考文献 References	APA(高橋三郎/大野裕監訳)（2014）『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』医学書院 WHO（融道夫他訳）（2005）『ICD-10 精神および行動の障害-臨床記述とガイドライン』医学書院 三浦四郎衛他著（2006）『精神科ポケット辞典（改訂版）』弘文堂 日本心理臨床学会、日本臨床心理士会、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会等による倫理綱領等 *常時携帯すること。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身につけている。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅰ	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	藤田　千鶴子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	臨床心理学の視点により、修論文執筆に必要な諸能力を身につけることを目標とする。 (1)基礎的な文献を収集・講読し、論文執筆のための知識、技能、情報を獲得する。 (2)研究目的や意義を見出しそれに沿って問題意識を明確化していくことができる。 (3)自身の研究テーマを具体化し、それに必要な作業を進めていくことができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	各自が選定した研究テーマに沿って修士論文を執筆し完成するための指導をおこなう。国内外の文献の収集・講読、毎回の授業での研究の進捗状況に関する報告、それらをもとにした授業でのディスカッション等を通して、研究テーマの明確化に努める。そしてそれらをもとに研究デザインを準備し、デザイン発表会で発表する。そこで得たコメントやアドバイスを参考に更に研究をすすめ、中間発表会での発表を修士論文の完成へとつないでいく。
履修上の注意事項 Remarks	修士論文は「臨床心理学」の内容であること。そのために、主に臨床心理学領域の文献収集および講読を通して、当該領域における情報、知識の獲得に絶えず注意を怠らぬこと。また、その都度の学会全体の動向にも関心を払うこと。特に、研究方法として質的方法を採る場合は、具体的な技法のみならず、その背景にある研究方法論についても知識を得ること。
準備学習 Preparation	臨床心理学、研究方法論、自身の研究テーマおよび関連領域についての文献収集に常に努めること。文献講読により得た情報・知識およびそれらについての自身の考察、疑問等について記録しておくこと。
評価方法 Evaluation Method	授業での文献報告およびレポート作成へのコミットメント(40%)、ディスカッションへの積極的な参加(30%)、デザイン発表会および中間発表会への準備と発表内容(30%)で総合的に評価する。
テキスト Materials	適宜紹介する。
参考文献 References	随時紹介する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	研究遂行に至る読解力、資料収集、分析能力を持ち、内外へ発信する能力を培っている。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅰ	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	餅原　尚子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	「臨床心理学」の修士論文作成の基盤づくりをする。特に、研究倫理を遵守した上で、臨床的場面での問題点を見つけ、研究目的やその意義を正確に論述する能力を有し、論理的思考、創造的思考を身につけることができることがねらいである。さらに、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけることを到達目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	臨床心理学の視座からの課題を中心に、各自の関心に基づく研究テーマを設定し、国内外の先行研究の検討や資料収集をはじめ、資料・データの検討、整理など、修士論文作成を視野に入れた指導を行う（精神科病院、スクール・カウンセリング、緊急支援、被害者・被災者支援、メンタルヘルス等における心理職としての実務経験に基づく業務の実際を活かした内容を取り入れる）。 乳幼児から成人までのトラウマ（PTSD、CIS）、発達障害（ASD、LD、ADHD など）、情緒障害（不登校、選択性緘黙、心身症など）、精神障害（統合失調症、うつ病など）、パーソナリティ障害（境界性パーソナリティ障害など）等のある人を対象に、特に、心理発達査定論（ロールシャッハ・テスト等）、治療論（来談者中心療法、実存分析、遊戯療法、ポスト・トラウマティック・カウンセリング等）をキーワードに、先行研究を調べ、最近の研究の動向を把握する。 次に、問題点を絞り、目的（仮説）を立て、研究倫理委員会の承認を経て、実証的なデータを収集する。
履修上の注意事項 Remarks	修士論文は、「臨床心理学」の内容であること。そのために、「臨床心理学」とは何か、再確認をしておくこと。また、臨床心理学の視点から、絶えず、心理臨床の場に生かせるような問題意識をもっておくこと。
準備学習 Preparation	臨床心理学に関する最新の情報を収集し、自分の問題意識に添って、研究テーマを検討し、それに関する国内外の文献収集を随時しておくこと。
評価方法 Evaluation Method	修士論文作成のプロセス（50%）と意欲の程度（20%）、修士論文の進捗状況（30%）により総合評価する。
テキスト Materials	久留一郎・餅原尚子著（2019）『臨床心理学ー「生きる意味の確立」と心理支援ー』八千代出版（全員購入）
参考文献 References	適宜指示する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	心理臨床学を基盤に、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけ、独創的視点で修士論文をまとめる統合力、総合力を獲得している。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅰ	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	小島　摩文	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	民俗学・文化人類学の方法論を用いて心理学との複合的な領域についての修士論文を作成する為に必要な基礎的技能を身につけることを目指す。 (1)民俗学・文化人類学の方法論を理解している。 (2)民俗学・文化人類学と心理学の複合領域について問題設定ができる。 (3)設定した問題について、先行研究を探査することができる。 (4)関連する論文を収集できる。 (5)関連する論文を読解できる。 (6)先行研究の中に自分の問題を位置づけることができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	民俗学・文化人類学の方法論について 民俗学・文化人類学の方法論について理解する。 修士論文のテーマを発表する 現時点での修士論文のテーマを発表形式で報告する。 テーマに関連する論文を収集 テーマに関連する論文をどのように収集するか学び、 実際に取り寄せる。 テーマに関連する論文を通読 収集した論文を広く読むと共に、精読する文献を選ぶ。 テーマに関連する論文を精読 テーマともっとも関連がありそうな論文を精読する。 論文の読解について詳しく学ぶ。 現在のテーマの点検 現在のテーマが修士論文として執筆可能かどうか検討する。 テーマの再設定 関係論文を読んだ上で、再度テーマを練り直す。 再度、文献検索を行う 再設定したテーマに沿って論文を再度収集する。 先行研究の検討 設定したテーマの先行研究を検討する。 修士論文構想の検討 検討した先行研究を踏まえ、自身の修士論文の構想を検討する。
履修上の注意事項 Remarks	修士論文は、民俗学・文化人類学の方法論を用いて研究することから民俗学、文化人ル学の方法論についての知識を身につけるとともに、フィールドワークの実際につての理解を深める努力をすること。
準備学習 Preparation	民俗学と文化人類学と心理学の複合領域に関するこれまでの歴史を学修するとともに、当該領域の最新の情報を収集し、自分の問題意識に沿って研究テーマを検討し、それに関する国内外の文献収集、熟読をしておくこと。
評価方法 Evaluation Method	レポート（50%） 研究態度(50%)
テキスト Materials	各自の問題意識に応じて講義内で紹介する。
参考文献 References	各自の問題意識に応じて講義内で紹介する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	研究遂行に至る読解力、資料収集、分析能力を持ち、内外へ発信する能力を培っている。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅰ	配当年次 Assigned Year	1年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	井上　祐子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	社会構造が変化する中で、これまでとは異なる生活課題が次々に出現し、対人援助職は社会にとってますます重要な存在になってきている。本授業では、院生が心理臨床家を目指して日々研鑽を積んできたことに基づいて、特に福祉分野における研究に取り組み、論文としてまとめることを目標とする。 １．論文作成に必要な研究の手法を理解することができる。 ２．論文作成に取り組む力を身につけることができる。 ３．論文のアウトライン、研究の方向性を明確にしながら、論文を作成することができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	本授業では、論文執筆方法の説明、テーマ設定、資料収集、情報整理、目標設定、章立て、概要作成、修士論文作成経過発表、修士論文公開審査会に向けたプレゼンテーションの演習等を行う。
履修上の注意事項 Remarks	授業ノート、配布プリントを紛失しないよう、整理すること。 授業中、質疑応答の時間を設けるので、不明な点は質問すること。
準備学習 Preparation	シラバスを参照し、専門用語等を調べておくこと。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	修士論文（60%）、課題提出（30%）、学習態度（10%）により評価する。
テキスト Materials	必要に応じて資料を配布する。
参考文献 References	適宜、紹介する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	研究遂行に至る読解力、資料収集、分析能力を持ち、内外へ発信する能力を培っている。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅰ	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	石井　洋平	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	臨床心理学の視点により、問題解決及び実践能力並びに理論的に論述する高度な能力を身につけることを狙いとする。 （1）臨床心理学的領域における修士論文を完成することができる。 （2）研究目的や意義を見いだし、問題解決を導き出すことができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	各自が設定した研究テーマに沿って修士論文の完成を目指す。研究計画を立て、研究課題の明確化、国内外の資料の収集方法、資料の講読あるいは解析（分析）、研究動向の把握、先行研究の整理、発表方法の習得等を内容とする個別的な指導を行う。また、関連文献の抄読や得られたデータに対するディスカッションを通して、クリティカルな視点を身につけることを重視する。 精神科病院臨床、教育臨床における実務経験および精神生理学的研究の実践経験を基に指導を行う。
履修上の注意事項 Remarks	修士論文は、「臨床心理学」の内容であること。そのために「臨床心理学」とは何か、再確認をしておくこと。また、臨床心理学の視点から、絶えず、心理臨床の場に活かせるような問題意識を持っておくこと。
準備学習 Preparation	臨床心理学に関する最新の情報を収集し、自分の問題意識に沿った研究テーマに関する国内外の文献収集をしておくこと。
評価方法 Evaluation Method	修士論文作成のプロセス（60%）、ディスカッション内容等の意欲（40%）により総合的に評価する。
テキスト Materials	適宜紹介する。
参考文献 References	適宜紹介する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	心理臨床学を基盤に、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけ、独創的な視点で修士論文をまとめる統合力、総合力を獲得している。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅰ	配当年次 Assigned Year	1年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	中村　誠文	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	臨床心理学を基盤として各自の興味関心に基づいた研究テーマを設定し、研究の動向に関する文献調査や研究倫理を厳守した上で調査をおこない、臨床に役立つ修士論文を目指すとともに、研究の基礎を身につける。また、人や社会に関心を持ち、情報収集、分析能力とともに研究と心理専門職者に必要な“想像力と創造力”を養い、内外に発信する能力を培っていくことが目的である。 1.臨床心理学を基盤として、興味関心のあることを述べることができる。 2.先行研究や文献調査をし、それを整理し説明することができる。 3.研究倫理や臨床心理学の研究法に則り、調査研究を実施していくことができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	各自の興味関心に基づいた研究テーマを臨床心理学の視点から検討する。先行研究等の文献を収集し、研究の独創性にも考慮しながら研究テーマを具体化していく。また医療、福祉、教育、産業・労働領域や家族療法・ブリーフセラピーの知見や臨床的視点をふまえながら指導を行っていく。 修士論文の作成過程では、問題意識をもちながらクリティカルな視点で先行研究や最近の研究の動向を把握し、具体的な研究計画を立て、研究倫理に配慮しながら方法論について検討し、実証調査をおこなっていく。授業を通して、論文作成はもちろんのこと、心理専門職者としての姿勢・態度、論理的思考と創造的思考を培うことも目指して、授業を展開していく。
履修上の注意事項 Remarks	修士論文は「臨床心理学」の内容なので、「臨床心理学」とは何かを再認識しておくこと。 また、臨床心理学の視点から絶えず、心理臨床の場に生かせるような問題意識を持っておくこと。
準備学習 Preparation	自身の研究的関心、臨床的関心を常に深め、国内外の文献に触れておくこと。 また、臨床心理学に関連する学会への積極的な参加を期待する。
評価方法 Evaluation Method	評価は、「関心・意欲の程度をみる論文作成への取り組み」（50%）、「中間発表でのプレゼンテーション」（50%）の総合評価とする。
テキスト Materials	適宜紹介する。
参考文献 References	適宜紹介する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	研究遂行に至る読解力、資料収集、分析能力を持ち、内外へ発信する能力を培っている。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅰ	配当年次 Assigned Year	1 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	楠瀬　悠	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	実験心理学を基盤として各自の興味・関心に基づいた研究テーマを設定し、先行研究に関する文献調査の方法や研究デザインの組み立て方、実験手法、分析手法、論文の書き方など、修士論文を作成するにあたって必要となる研究スキルを身につけることを目標とする。 １．自身の問題意識や研究テーマの内容について表現することができる。 ２．研究に必要な文献について収集を行い、文献の内容について説明することができる。 ３．実験心理学の手法について理解し、心理実験や調査を行うことができる。 ４．実験心理学の論文の形式について理解し、実験レポートとしてまとめることができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	各自の興味・関心に基づいた研究テーマについて実験心理学的な視点から探求する。国内外の文献を収集し、内容をまとめて発表することを通じて、情報収集能力、文献読解能力を養う。また並行して、教員と学生間のディスカッションを通じて各自の問題意識について明確化・具体化していく。加えて、教員の計画した実験・調査を体験したり、自分自身の研究テーマに関連する実験・調査の予備実験を実施したりする過程を通じて、実験心理学的手法について理解を深め、学生が自身で研究を遂行する能力を身につける。その過程において、要因計画法、刺激の作成方法、統計パッケージを用いた分析方法（分散分析、重回帰分析、因子分析等）について指導を行う。また、インフォームド・コンセントやデブリーフィングなど、実験の実施に伴う倫理的問題や対処法についても指導する。 夏に実施される予定のデザイン発表会において、各自の研究テーマおよび研究手法について発表することを、冬に実施される予定の中間発表会において、予備実験・調査の結果をまとめ報告することを目標に授業を展開していく。予備実験・調査の結果については、最終的に実験レポートとしてまとめて提出する。
履修上の注意事項 Remarks	実験心理学は、主に心理実験を通じて人の「こころ」の仕組みを明らかにしていき、そうした知見を蓄積していくことで社会に貢献することを目指す学問である。従って、必ずしも臨床などの現場において直接的に役に立つことを目指しているわけではないが、自分の研究テーマや問題意識が将来的にどのように役立つのかを常に考えておくことはより良い研究を行う上で重要であり、心理専門職に就いた際の礎にもなると考えられる。また、より良い研究テーマや手法を探求する上では、臨床心理学、社会心理学、神経科学、薬理学、文化人類学など他領域についても幅広い知見を身につけることが非常に重要である。自分の研究テーマに関連する分野だけでなく、様々な分野に興味を持って積極的に取り組むこと。
準備学習 Preparation	適切な研究テーマを見つけるために、自身が人の「こころ」の仕組みに関して「どのようなことを知りたい」のかを常日頃から考えてメモを取る習慣を身につけること。また、情報収集することが非常に大事なので、授業での発表等の有無に関わらず、興味・関心のあるテーマについての国内外の論文を積極的に読むこと。 加えて、日本心理学会等の学会への参加および発表を推奨する。
評価方法 Evaluation Method	デザイン発表会および中間発表会における評価（50 点）、授業における文献発表や研究の構想発表、実験・調査への取り組みなど（30 点）、実験レポート（20 点）で評価する。
テキスト Materials	適宜紹介する。
参考文献 References	適宜紹介する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	研究遂行に至る読解力、資料収集、分析能力を持ち、内外へ発信する能力を培っている。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅱ	配当年次 Assigned Year	2 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	藤田　千鶴子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	臨床心理学の視点により、修論文執筆に必要な諸能力を身につけることを目標とする。 (1)基礎的な文献を収集・講読し、論文執筆のための知識、技能、情報を獲得する。 (2)研究目的や意義を見出しそれに沿って問題意識を明確化していくことができる。 (3)自身の研究テーマを具体化し、それに必要な作業を進めていくことができる。 (4)以上の過程で身につけた諸能力を活用し、修士論文を執筆・完成することができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	各自が選定した研究テーマに沿って修士論文を執筆し完成するための指導をおこなう。国内外の文献の収集・講読、毎回の授業での研究の進捗状況に関する報告、それらをもとにした授業でのディスカッション等を通して、研究テーマの明確化に努める。そしてそれらをもとに研究デザインを準備し、デザイン発表会で発表する。そこで得たコメントやアドバイスを参考に更に研究をすすめ、中間発表会での発表を修士論文の完成へとつないでいく。
履修上の注意事項 Remarks	修士論文は「臨床心理学」の内容であること。そのために、主に臨床心理学領域の文献収集および講読を通して、当該領域における情報、知識の獲得に絶えず注意を怠らぬこと。また、その都度の学会全体の動向にも関心を払うこと。特に、研究方法として質的方法を採る場合は、具体的な技法のみならず、その背景にある研究方法論についても知識を得ること。
準備学習 Preparation	臨床心理学、研究方法論、自身の研究テーマおよび関連領域についての文献収集に常に努めること。文献講読により得た情報・知識およびそれらについての自身の考察、疑問等について記録しておくこと。
評価方法 Evaluation Method	授業での文献報告およびレポート作成へのコミットメント(30%)、ディスカッションへの積極的な参加(20%)、修士論文作成の過程および内容(50%)で総合的に評価する。
テキスト Materials	適宜紹介する。
参考文献 References	随時紹介する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	心理臨床学を基盤に、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけ、独創的な視点で修士論文をまとめる総合力、統合力を獲得している。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅱ	配当年次 Assigned Year	2 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	小島　摩文	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	民俗学・文化人類学の方法論を用いて心理学との複合的な領域について、課題発見及び課題解決、理論的に論述する高度な能力を身につけることを目標とする。 （1）研究目的や意義を見いだし、課題解決を導き出すことができる。 （2）修士論文を完成することができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	研究方法と論文の書き方 民俗学・文化人類学の方法論について 論文を完成させる道筋 論文完成までのスケジュールをイメージできるようにする。 研究テーマと論文の方向性の確認 論文の方向性とそれに利用する基本資料を報告 論文の仮説と理論枠組み 論文の基本的な仮説と理論枠組みを報告 資料探索 図書館、WEB での検索などにより論文作成に必要な文献・資料の所在を確認する。 文献リストの作成 論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリストを作成する。 先行研究 この時点で、先行研究のレビューを一度完成させる。 論文の構成 目次を作成し、論文の構成、論述の順序などを考え、報告し、教員とディスカッションする 参考文献と理論的枠組の確認 論文作成にあたって基本文献（先行研究）を報告し、自身の論文の基本的な理論枠組みについて議論する。 主要資料の読み込み 論文作成上、最も重要となる文献・資料を題材に、それをどのように読み解いて論文に活かそうとしているのかを報告する。 論文の作法 論文の形式上のスタイル、注や参考文献の引用の仕方など論文作成の基本的なルールについて確認 論文作成開始 最も書きやすい部分を実際に書く。構想することと実際に文章を書くこととの間にはかなり大きな隔たりがあることを実感する。 論文の構想の再検討 一部の執筆を終えて、改めて全体構想、仮説、理論的枠組を再検討する スケジュールの再確認 論文の構想の再検討を踏まえて、提出までのスケジュールを確認するとともに、この時点での論文構想を発表形式で確認する。 論文作成進捗状況確認 この後、執筆箇所を決め、実際に記述する。それを検討し、推敲、修正を行う この作業を繰り返し行う。 第一稿の完成 論文全体をとにかく記述する。学生と教員とで討議しながら、あらゆる視点から批判的に検討する 第二稿の完成 批判を受けて、第一稿を書き直し、第二稿を完成させる 必要があれば、さらに修正をする 論文内容についての討議 口頭試問に備えて、重要な論点について討議を行う 完成稿にむけて 討議の結果を踏まえて、さらに修正を行う
履修上の注意事項 Remarks	修士論文は、民俗学・文化人類学の方法論を用いて研究することから民俗学、文化人ル学の方法論についての知識を身につけるとともに、フィールドワークの実際につての理解を深める努力をすること
準備学習 Preparation	民俗学と文化人類学と心理学の複合領域に関するこれまでの歴史を学修するとともに、当該領域の最新の情報を収集し、自分の問題意識に沿って研究テーマを検討し、それに関する国内外の文献収集、熟読をしておくこと。
評価方法 Evaluation Method	修士論文作成の態度（40%） 修士論文の内容（60%）
テキスト Materials	各自のテーマに沿って講義内で示す。
参考文献 References	各自のテーマに沿って講義内で示す。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	心理臨床学を基盤に、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけ、独創的視点で修士論文をまとめる統合力、総合力を獲得している。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅱ	配当年次 Assigned Year	2 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	餅原　尚子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	「特別研究Ⅰ」を基盤に、独創的視点で修士論文をまとめる統合力、総合力を獲得し、修士論文を完成することを到達目標とする。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	「特別研究Ⅰ」で得られたデータを解析し（質的分析：現象学的アプローチ等、量的分析）、考察を加えていくという手順で修士論文作成の指導を行う。 　得られた結果を心理臨床場面でフィードバックすることは、必須の条件である。データを臨床的に意味づけ、考察するとともに、データの光と影を洞察する眼を感得するよう指導をする。
履修上の注意事項 Remarks	修士論文は、「臨床心理学」の内容であること。そのために、「臨床心理学」とは何か、再確認をしておくこと。また、臨床心理学の視点から、絶えず、心理臨床の場に生かせるような問題意識をもっておくこと。
準備学習 Preparation	臨床心理学に関する最新の情報を収集し、自分の問題意識に添って、研究テーマを検討し、それに関する国内外の文献収集を随時しておくこと。
評価方法 Evaluation Method	修士論文作成のプロセス（50%）と意欲の程度（20%）、修士論文の完成度（30%）により総合評価する。
テキスト Materials	久留一郎・餅原尚子著（2019）『臨床心理学ー「生きる意味の確立」と心理支援ー』八千代出版（全員購入）
参考文献 References	適宜指示する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	心理臨床学を基盤に、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけ、独創的視点で修士論文をまとめる統合力、総合力を獲得している。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅱ	配当年次 Assigned Year	2 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	石井　洋平	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	臨床心理学の視点により、問題解決及び実践能力並びに理論的に論述する高度な能力を身につけることを狙いとする。 （1）臨床心理学的領域における修士論文を完成することができる。 （2）研究目的や意義を見いだし、問題解決を導き出すことができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	各自が設定した研究テーマに沿って修士論文の完成を目指す。研究計画を立て、研究課題の明確化、国内外の資料の収集方法、資料の講読あるいは解析（分析）、研究動向の把握、先行研究の整理、発表方法の習得等を内容とする個別的な指導を行う。また、関連文献の抄読や得られたデータに対するディスカッションを通して、クリティカルな視点を身につけることを重視する。 精神科病院臨床、教育臨床における実務経験および精神生理学的研究の実践経験を基に指導を行う。
履修上の注意事項 Remarks	修士論文は、「臨床心理学」の内容であること。そのために「臨床心理学」とは何か、再確認をしておくこと。また、臨床心理学の視点から、絶えず、心理臨床の場に活かせるような問題意識を持っておくこと。
準備学習 Preparation	臨床心理学に関する最新の情報を収集し、自分の問題意識に沿った研究テーマに関する国内外の文献収集をしておくこと。
評価方法 Evaluation Method	修士論文作成のプロセス（40%）、ディスカッション内容等の意欲（30%）、修士論文の完成度（30%）により総合的に評価する。
テキスト Materials	適宜紹介する。
参考文献 References	適宜紹介する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	心理臨床学を基盤に、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけ、独創的な視点で修士論文をまとめる統合力、総合力を獲得している。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅱ	配当年次 Assigned Year	2 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	井上　祐子	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	社会構造が変化する中で、これまでとは異なる生活課題が次々に出現し、対人援助職は社会にとってますます重要な存在になってきている。本授業では、院生が心理臨床家を目指して日々研鑽を積んできたことに基づいて、特に福祉分野における研究に取り組み、論文としてまとめることを目標とする。 １．論文作成に必要な研究の手法を理解することができる。 ２．論文作成に取り組む力を身につけることができる。 ３．論文のアウトライン、研究の方向性を明確にしながら、論文を作成することができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	本授業では、論文執筆方法の説明、テーマ設定、資料収集、情報整理、目標設定、章立て、概要作成、修士論文作成経過発表、要旨作成、修士論文公開審査会における発表等を行う。
履修上の注意事項 Remarks	授業ノート、配布プリントを紛失しないよう、整理すること。 授業中、質疑応答の時間を設けるので、不明な点は質問すること。
準備学習 Preparation	シラバスを参照し、専門用語等を調べておくこと。1 回の授業に対し 4 時間程度の時間外学習。
評価方法 Evaluation Method	修士論文（60%）、課題提出（30%）、学習態度（10%）により評価する。
テキスト Materials	必要に応じて資料を配布する。
参考文献 References	適宜、紹介する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	心理臨床学を基盤に、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけ、独創的視点で修士論文をまとめる統合力、総合力を獲得している。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅱ	配当年次 Assigned Year	2 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	中村　誠文	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	臨床心理学を基盤として各自の興味関心に基づいた研究テーマを設定し、研究の動向に関する文献調査や研究倫理を厳守した上で調査をおこない、臨床に役立つ修士論文を目指すとともに、研究の基礎を身につける。また、人や社会に関心を持ち、情報収集、分析能力とともに研究と心理専門職者に必要な“想像力と創造力”を養い、内外に発信する能力を培っていくことが目的である。 1.先行研究や文献調査をし、それを整理し説明することができる。 2.臨床心理学の研究法や論文作成の作法を学び、論文として形にしていくことができる。 3.論文として形にし、論文を内外に発信していくことができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	各自の興味関心に基づいた研究テーマを臨床心理学の視点から検討する。先行研究等の文献を収集し、研究の独創性にも考慮しながら研究テーマを具体化していく。また医療、福祉、教育、産業・労働領域や家族療法・ブリーフセラピーの知見や臨床的視点をふまえながら指導を行っていく。 修士論文の作成過程では、問題意識をもちながらクリティカルな視点で先行研究や最近の研究の動向を把握し、具体的な研究計画を立て、研究倫理に配慮しながら方法論について検討し、実証調査をおこなっていく。授業を通して、論文作成はもちろんのこと、心理専門職者としての姿勢・態度、論理的思考と創造的思考を培うことも目指して、授業を展開していく。
履修上の注意事項 Remarks	修士論文は「臨床心理学」の内容なので、「臨床心理学」とは何かを再認識しておくこと。 また、臨床心理学の視点から絶えず、心理臨床の場に生かせるような問題意識を持っておくこと。
準備学習 Preparation	自身の研究的関心、臨床的関心を常に深め、国内外の文献に触れておくこと。 また、臨床心理学に関連する学会への積極的な参加を期待する。
評価方法 Evaluation Method	評価は、「関心・意欲の程度をみる論文作成への取り組み」（50%）、「論文の内容」（50%）の総合評価とする。
テキスト Materials	適宜紹介する。
参考文献 References	適宜紹介する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	心理臨床学を基盤に、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけ、独創的視点で修士論文をまとめる統合力、総合力を獲得している。

科 目 名 Subject Name	特別研究Ⅱ	配当年次 Assigned Year	2 年	開講時期 Semester	通年 毎年
担当教員 Instructor	楠瀬　悠	授業形態 Lecture Seminar and Practice	演習	単位数 Credits	4
関連資格 Related Qualification		備　　考 Notes	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		

到達目標 Class Objectives	実験心理学を基盤として、各自の興味・関心に沿った研究テーマを設定し、文献収集、心理実験・調査の実施および分析を行い、修士論文を作成する。 １．自身の問題意識や研究テーマの内容について明確に表現することができる。 ２．研究に必要な文献について収集を行い、先行研究について批判的に読むことができる。 ３．実験心理学の手法について理解し、自分自身で心理実験や調査を行うことができる。 ４．実験心理学の論文の形式について理解し、修士論文としてまとめることができる。
授 業 の 展開計画 Outline of Class Sessions	実験心理学を基盤として、各自の興味・関心に沿った研究テーマに関する修士論文を作成する。修士論文の作成に必要な国内外の文献を収集し、批判的な視点から先行研究を熟読するとともに、自身の問題意識と先行研究の関連性を結びつけ、文章にまとめる作業を通じて、論理的思考力および文章構成力を養う。また、特別研究Ⅰで実施した予備実験の結果に基づいて、修士論文のための本実験のための研究計画をデザインし、仮説を立て、実験・調査を実施する作業を通じて、研究遂行能力を養う。その過程において、要因計画法、刺激の作成方法、統計パッケージを用いた分析方法（分散分析、重回帰分析、因子分析等）について指導を行う。また、インフォームド・コンセントやデブリーフィングなど、実験の実施に伴う倫理的問題や対処についても指導する。最後に、得られた実験結果についての適切な解釈方法、先行研究との関連性、研究の意義や問題点について、教員・学生間のディスカッションを交えつつ考察を深め、文章にまとめていくことで修士論文を完成させる。
履修上の注意事項 Remarks	実験心理学は、主に心理実験を通じて人の「こころ」の仕組みを明らかにしていき、そうした知見を蓄積していくことで社会に貢献することを目指す学問である。従って、必ずしも臨床などの現場において直接的に役に立つことを目指しているわけではないが、自分の研究テーマや問題意識が将来的にどのように役立つのかを常に考えておくことはより良い研究を行う上で重要であり、心理専門職に就いた際の礎にもなると考えられる。また、より良い研究テーマや手法を探求する上では、臨床心理学、社会心理学、神経科学、薬理学、文化人類学など他領域についても幅広い知見を身につけることが非常に重要である。自分の研究テーマに関連する分野だけでなく、様々な分野に興味を持って積極的に取り組むこと。
準備学習 Preparation	適切な研究テーマを見つけるために、自身が人の「こころ」の仕組みに関して「どのようなことを知りたい」のかを常日頃から考えてメモを取る習慣を身につけること。また、情報収集することが非常に大事なので、授業での発表等の有無に関わらず、興味・関心のあるテーマについての国内外の論文を積極的に読むこと。 加えて、日本心理学会等の学会への参加および発表を推奨する。
評価方法 Evaluation Method	修士論文の完成度（50 点）、修士論文の執筆過程（20 点）、授業における文献発表や研究発表、実験・調査への取り組みなど（30 点）で評価する。
テキスト Materials	適宜紹介する。
参考文献 References	適宜紹介する。
ディプロマポリシー Diploma policy -related point	心理臨床学を基盤に、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけ、独創的視点で修士論文をまとめる統合力、総合力を獲得している。